

第52回
市政世論調査
(概要版)



令和2年
府 中 市

< 目 次 >

府中市市政世論調査について	1
回答者の概要	2
【住み心地】について	3
■府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
■身近な住まいの環境についての率直な感想	4
【生活の満足度】について	5
■現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
■今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に関する関心度】について	7
■市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【広報・情報発信】について	10
■行政情報の入手手段	10
■「広報ふちゅう」を読む頻度	11
■「広報ふちゅう」で関心を持って読む記事	11
■「広報ふちゅう」で今後工夫してほしいこと	12
■「広報ふちゅう」の発行頻度	12
【文化・スポーツ施設の老朽化対策】について	13
■利用頻度について	13
■効果的な取組について	14
【市民協働の推進】について	15
■「協働」という言葉を知っているか	15
■「協働」について興味があるか	15
■協働によるまちづくりを進めるために市が力を入れるべきこと	16
【市民活動】について	17
■「市民活動」に取り組んだことがあるか	17
【男女共同参画社会】について	17
■「フチャール」を利用したことがあるか	17
■女性が職業を長く持ち続けていくうえで、壁になっているもの	18

■ 「フチャール」で参加したい、利用したい講座など	19
■ 女性問題相談窓口を知っているか	19
■ 家庭における男女のあり方について	20
■ 家庭の家事（育児・介護）の状況について	20
【商店街における消費者動向】について	21
■ 自宅近くの商店街の利用頻度	21
■ 自宅近くの商店街に期待するサービス	21
【農業】について	22
■ 農業について重要だと思うことは何か	22
■ 市内の農地が減ることについて感じる事	22
■ 市の農業振興のために市が施策・事業に力を入れるべきこと	23
【観光】について	24
■ 市の観光地について知名度、来訪の有無、満足度	24
【環境問題に対する取組】について	27
■ 環境に関する取組	27
【生物多様性地域戦略】について	28
■ 「生物多様性」という言葉を知っているか	28
■ 生物多様性保全活動に参加したいか	28
■ 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること	29
【自転車利用】について	29
■ 自転車の保有台数について	29
■ 自転車の利用頻度について	30
■ 自転車を利用する主な目的について	30
■ 自転車乗用中のヘルメット着用について	31
■ 自転車の点検整備について	31
■ 「自転車ナビマーク」「自転車ナビライン」に対する行動	32
■ 自転車損害保険の加入状況	32
【成人式の対象年齢】について	33
■ 18歳への成年年齢の引き下げ後、成人式は何歳を対象とすべきか	33
■ 成人式の対象年齢を20歳と選んだ理由	33
■ 成人式の対象年齢を18歳と選んだ理由	34
■ 式典の名称はどのようなものがよいか	34
【景観まちづくり】について	35
■ 市の景観は魅力的か	35

■良好な景観形成を推進していることを知っているか	35
■景観まちづくりの取組について力をいれてほしいこと	36
■住民主体の景観まちづくりのルール作りに参加したいか	36

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第52回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様の考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「広報・情報発信」「文化・スポーツ施設の老朽化対策」「市民協働の推進」「市民活動」「男女共同参画社会」「商店街における消費者動向」「農業」「観光」「環境問題に対する取組」「生物多様性地域戦略」「自転車利用」「成人式の対象年齢」「景観まちづくり」についてお聞きしました。

本書は、調査結果の一部をまとめた概要版です。

ご協力いただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

調査の方法

調査の地域	: 府中市全域
調査対象者	: 府中市在住の満18歳以上の男女
調査数	: 1,500人
抽出方法	: 地点を用いた二段抽出法 (住民基本台帳の登録人口を11の地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法)
調査方法	: 郵送法(郵送配布、郵送回収)
調査期間	: 令和2年6月2日(火)～令和2年7月17日(金)
回収数(率)	: 900(60.0%)

調査の内容

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 住み心地 | 10. 市民活動 |
| 2. 住まいの環境 | 11. 男女共同参画社会 |
| 3. 生活の満足度 | 12. 商店街における消費者動向 |
| 4. 定住意向 | 13. 農業 |
| 5. 市政に関する関心度 | 14. 観光 |
| 6. 市への要望
(第52回特設設問) | 15. 環境問題に対する取組 |
| 7. 広報・情報発信 | 16. 生物多様性地域戦略 |
| 8. 文化・スポーツ施設の老朽化対策 | 17. 自転車利用 |
| 9. 市民協働の推進 | 18. 成人式の対象年齢 |
| | 19. 景観まちづくり |

注意事項 本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

- (1) 百分率(%)の計算は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。このため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答(2つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると100%を超える場合があります。
- (2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。

回答者の概要

回答数900件の属性別回答者数と構成比を表します。

〔性別〕

	回答者数(人)	構成比(%)
男性	367	40.8
女性	482	53.6
回答しない	6	0.7
(無回答)	45	5.0

〔職業〕

	回答者数(人)	構成比(%)
事務職	112	12.4
専門・技術職	194	21.6
労務・サービス職	73	8.1
役員・管理職	53	5.9
商・工・サービス業	37	4.1
自由業	26	2.9
農林漁業	3	0.3
内職・パート・フリーター	100	11.1
主婦(家事専業)	117	13.0
学生	37	4.1
無職	111	12.3
(無回答)	37	4.1

〔未婚・既婚〕

	回答者数(人)	構成比(%)
未婚	215	23.9
既婚(離別・死別含む)	644	71.6
(無回答)	41	4.6

〔ライフステージ〕

	回答者数(人)	構成比(%)
独身期	132	14.7
家族形成期	110	12.2
家族成長前期	95	10.6
家族成長後期・家族成熟期	129	14.3
高齢期	76	8.4
高齢者世帯	118	13.1
その他	170	18.9
(無回答)	70	7.8

〔年齢〕

	回答者数(人)	構成比(%)
18~29歳	114	12.7
30~39歳	138	15.3
40~49歳	198	22.0
50~59歳	172	19.1
60~69歳	106	11.8
70歳以上	152	16.9
(無回答)	20	2.2

〔地区〕

	総人口(人)	対象者数(人)	調査数(人)	回答率(%)	回答者数(人)	構成比(%)
紅葉丘文化センター	22,859	19,025	132	50.0	66	7.3
白糸台文化センター	29,105	24,705	169	61.5	104	11.6
押立文化センター	9,780	8,299	57	63.2	36	4.0
是政文化センター	25,065	20,921	143	62.2	89	9.9
住吉文化センター	26,778	22,380	152	55.9	85	9.4
片町文化センター	30,675	26,224	180	62.8	113	12.6
中央文化センター	42,252	35,763	250	65.2	163	18.1
新町文化センター	25,972	22,109	146	61.0	89	9.9
武蔵台文化センター	14,613	12,563	87	50.6	44	4.9
西府文化センター	19,066	15,626	106	62.3	66	7.3
四谷文化センター	14,217	11,468	78	57.7	45	5.0
総計	260,382	219,083	1,500	60.0	900	100.0

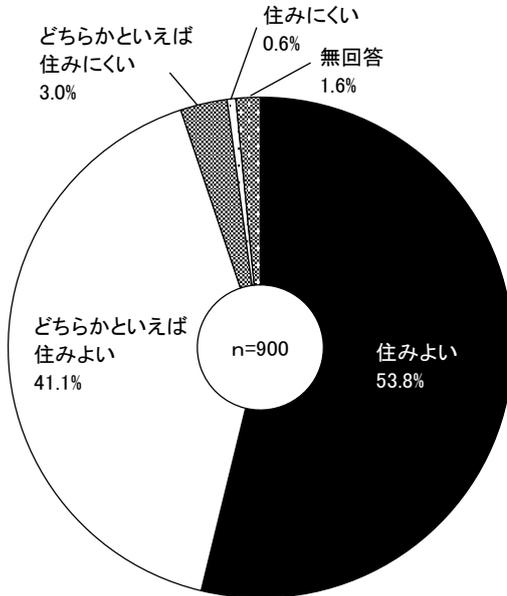
上記対象者は、令和2年4月1日現在の満18歳以上の人口である。

【住み心地】について

■ 府中市は住みよいところだと感じるか (n=900)

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割半ばが『府中市は住みよい』と感じている。

図1 住み心地

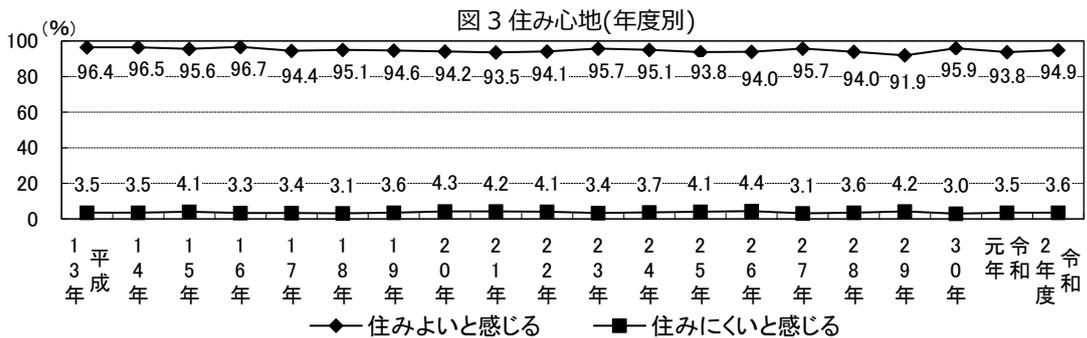
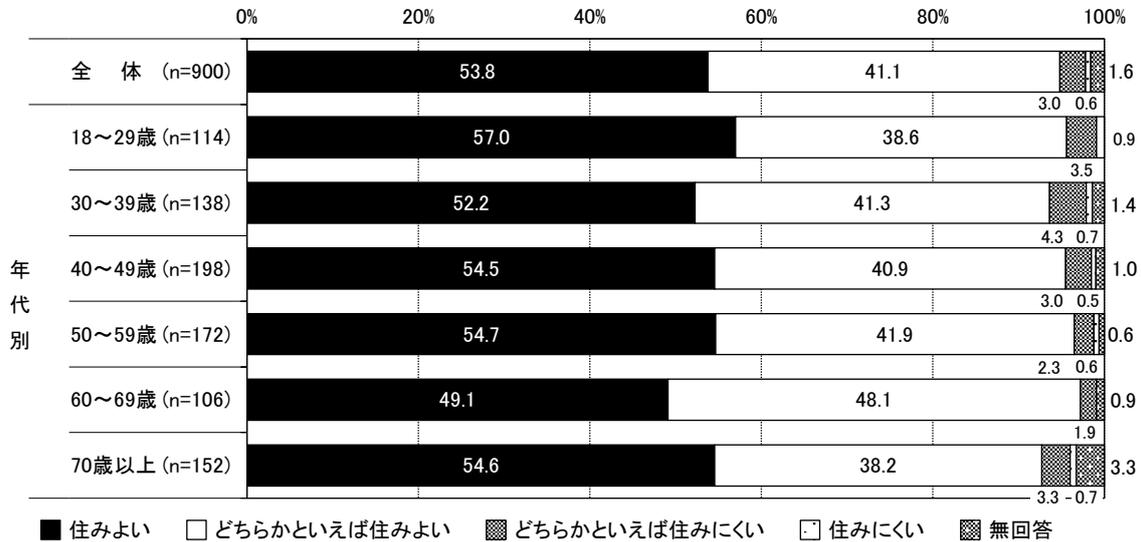


「住みよい」(53.8%)と「どちらかといえば住みよい」(41.1%)を合わせた『住みよいと感じる』割合は、9割半ば(94.9%)にのぼる。

また、「住みにくい」(0.6%)と「どちらかといえば住みにくい」(3.0%)を合わせた『住みにくいとを感じる』割合は 3.6%である。

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた『住みよいと感じる』割合は、年代別では、「60～69歳」(97.2%)が最も高く、「70歳以上」(92.8%)が最も低い。

図2 住み心地(年代別)



【住まいの環境】について

■ 身近な住まいの環境についての率直な感想 (n=900)

「非常によい」と「まあよい」を合わせた『よいと感じる住まいの環境』は、「緑の豊かさ」、「風通し、日当たり」、「交通の便」の順になっている。「あまりよくない」と「非常に悪い」を合わせた『よくないと感じる住まいの環境』は、「蚊やハエの発生の防止」、「騒音や振動の防止」、「日常の買い物の便」の順になっている。

図4 身近な住まいの環境についての率直な感想

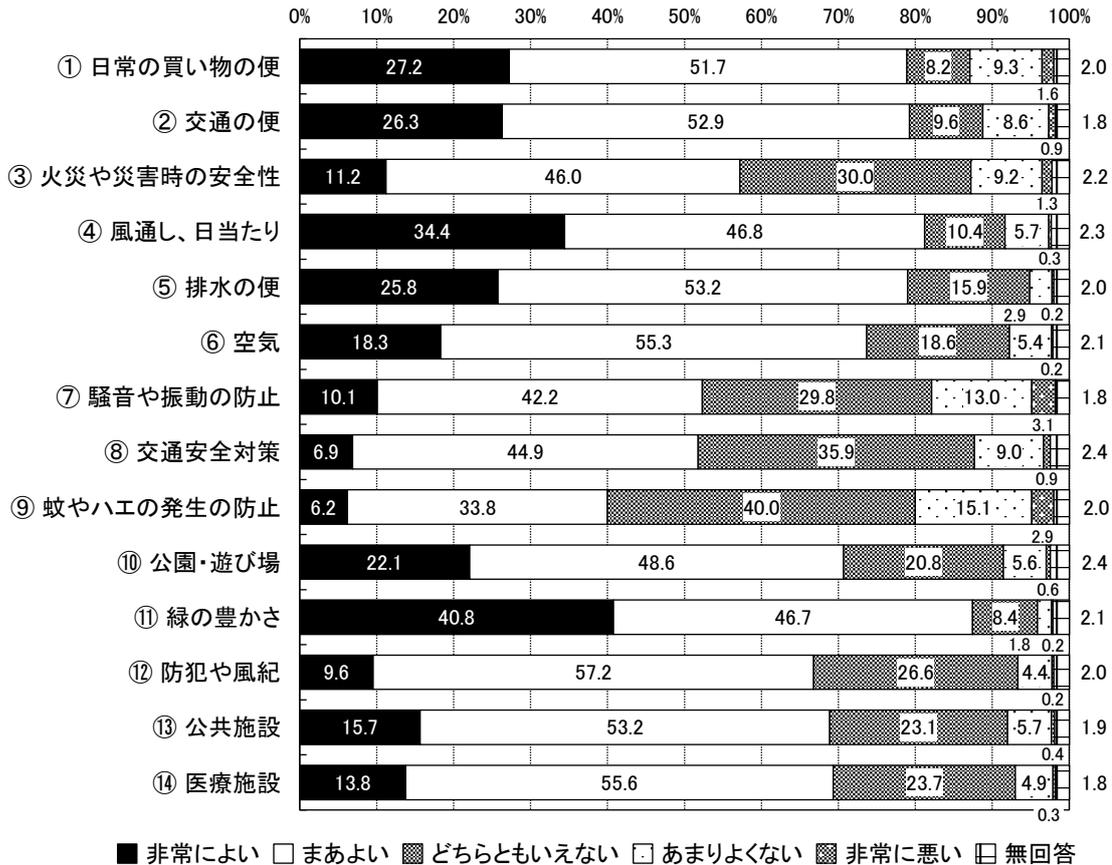


表1 『よい』と感じる割合の順

順位	住まいの環境	非常によい または まあよい (%)
1位	⑪ 緑の豊かさ	87.5
2位	④ 風通し、日当たり	81.2
3位	② 交通の便	79.2
4位	⑤ 排水の便	79.0
5位	① 日常の買い物の便	78.9
6位	⑥ 空気	73.6
7位	⑩ 公園・遊び場	70.7
8位	⑭ 医療施設	69.4
9位	⑬ 公共施設	68.9
10位	⑫ 防犯や風紀	66.8
11位	③ 火災や災害時の安全性	57.2
12位	⑦ 騒音や振動の防止	52.3
13位	⑧ 交通安全対策	51.8
14位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	40.0

表2 『よくない』と感じる割合の順

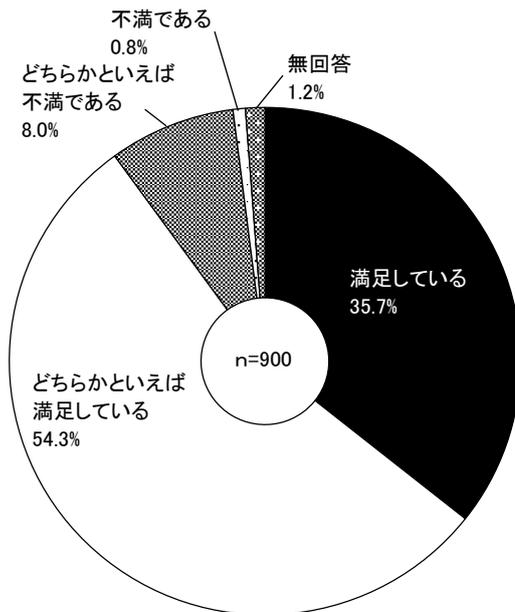
順位	住まいの環境	あまりよくない または 非常に悪い (%)
1位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	18.0
2位	⑦ 騒音や振動の防止	16.1
3位	① 日常の買い物の便	10.9
4位	③ 火災や災害時の安全性	10.5
5位	⑧ 交通安全対策	9.9
6位	② 交通の便	9.5
7位	⑩ 公園・遊び場	6.2
8位	⑬ 公共施設	6.1
9位	④ 風通し、日当たり	6.0
10位	⑥ 空気	5.6
11位	⑭ 医療施設	5.2
12位	⑫ 防犯や風紀	4.6
13位	⑤ 排水の便	3.1
14位	⑪ 緑の豊かさ	2.0

【生活の満足度】について

■ 現在の生活にどの程度満足しているか (n=900)

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割が『生活に満足している』と感じている。

図5 生活の満足度

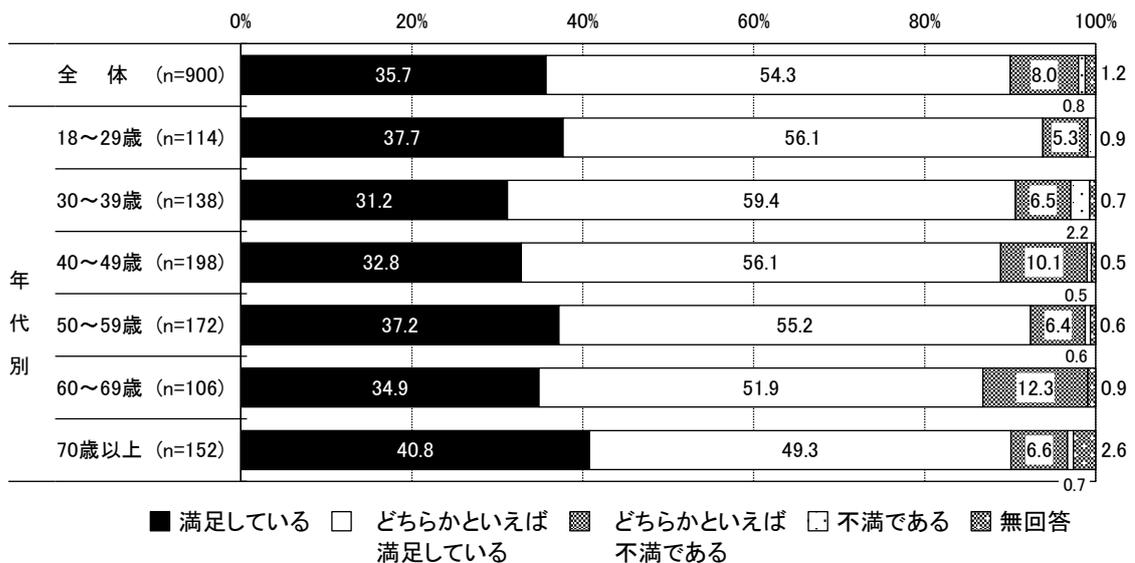


「満足している」(35.7%)と「どちらかといえば満足している」(54.3%)を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、9割となる(90.0%)。

また、「不満である」(0.8%)と「どちらかといえば不満である」(8.0%)を合わせた『生活に不満を感じる』割合は、1割に満たない(8.8%)。

年代別では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、「18～29歳以上」(93.8%)が最も高く、「60～69歳」(86.8%)が最も低い。

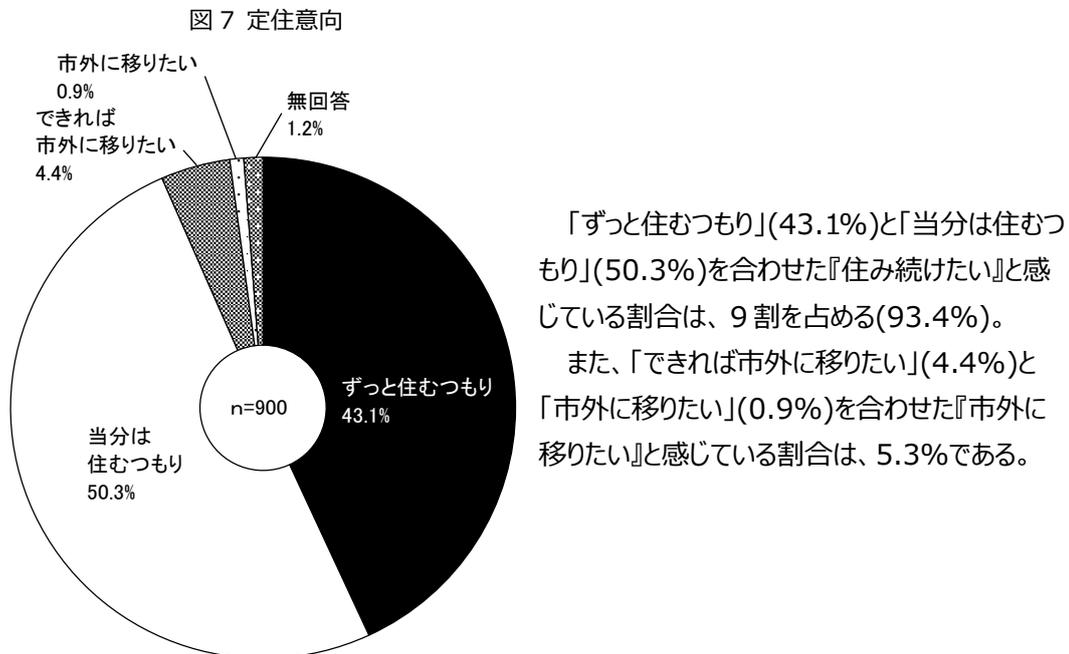
図6 生活の満足度 (年代別)



【定住意向】について

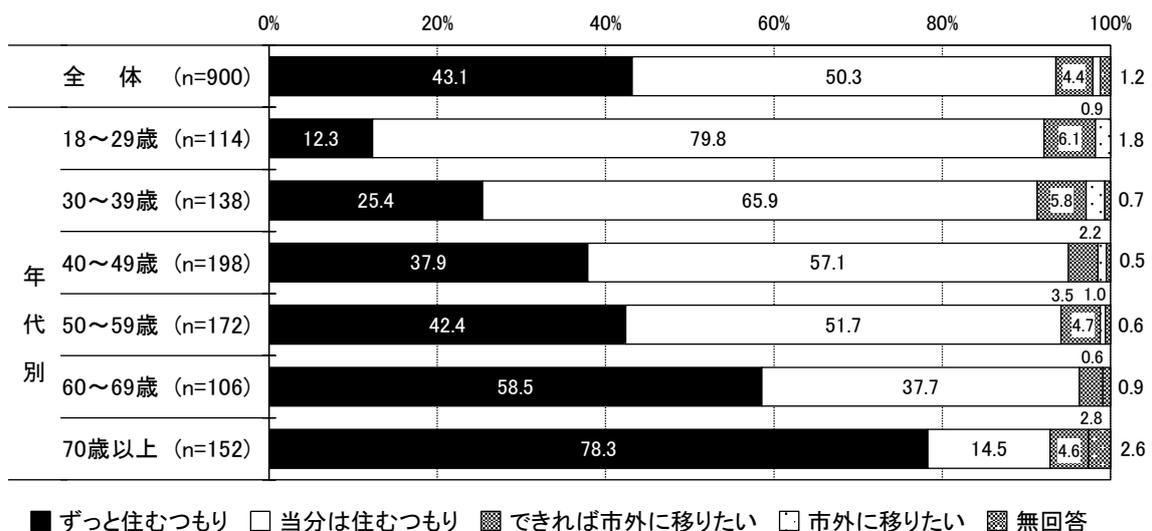
■ 今後も府中市に住み続けたいと思うか (n=900)

「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせると、9割以上が『今後も府中市に住み続けたい』と感じている。



年代別では、「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせた『住み続けたい』と感じている割合は、「60～69歳」(96.2%)が最も高く、「30～39歳」(91.3%)が最も低い。

図8 定住意向 (年代別)

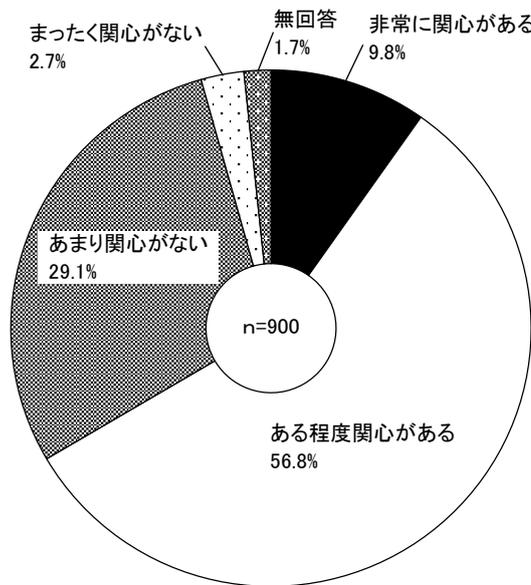


【市政に関する関心度】について

■ 市政にどの程度関心を持っているか (n=900)

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると、6割半ばが市政に関心を持っている。

図9 市政に関する関心度

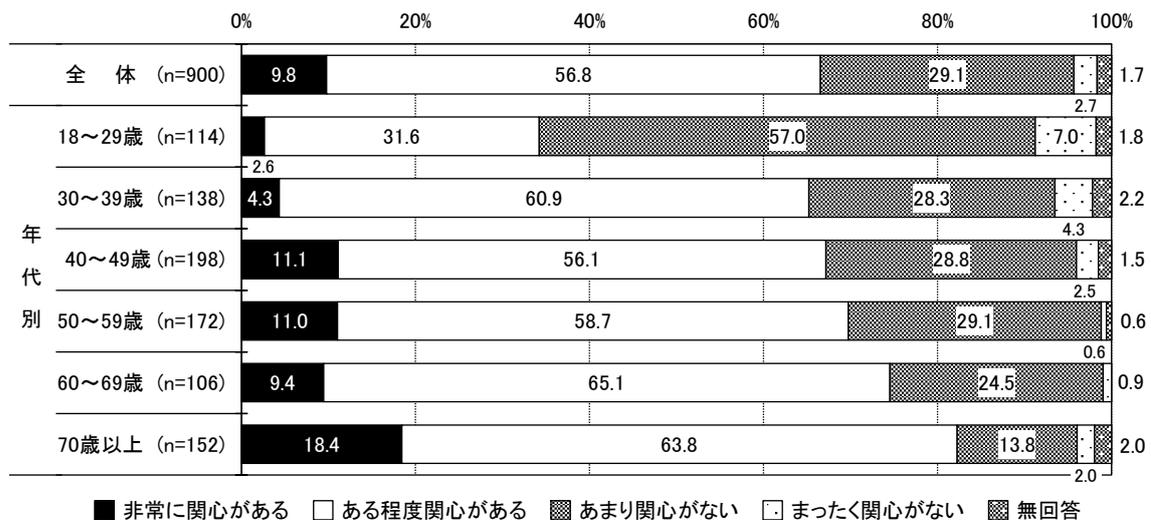


「非常に関心がある」(9.8%)と「ある程度関心がある」(56.8%)を合わせた『市政に関心がある』割合は 66.6%で、6割半ばが市政に関心を持っている。

一方、『市政に関心がない』割合は、「まったく関心がない」(2.7%)と「あまり関心がない」(29.1%)を合わせた 31.8%である。

年代別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『市政に関心がある』割合は、「70歳以上」(82.2%)が最も高く、「18～29歳」(34.2%)が最も低い。

図10 市政に関する関心度(年代別)

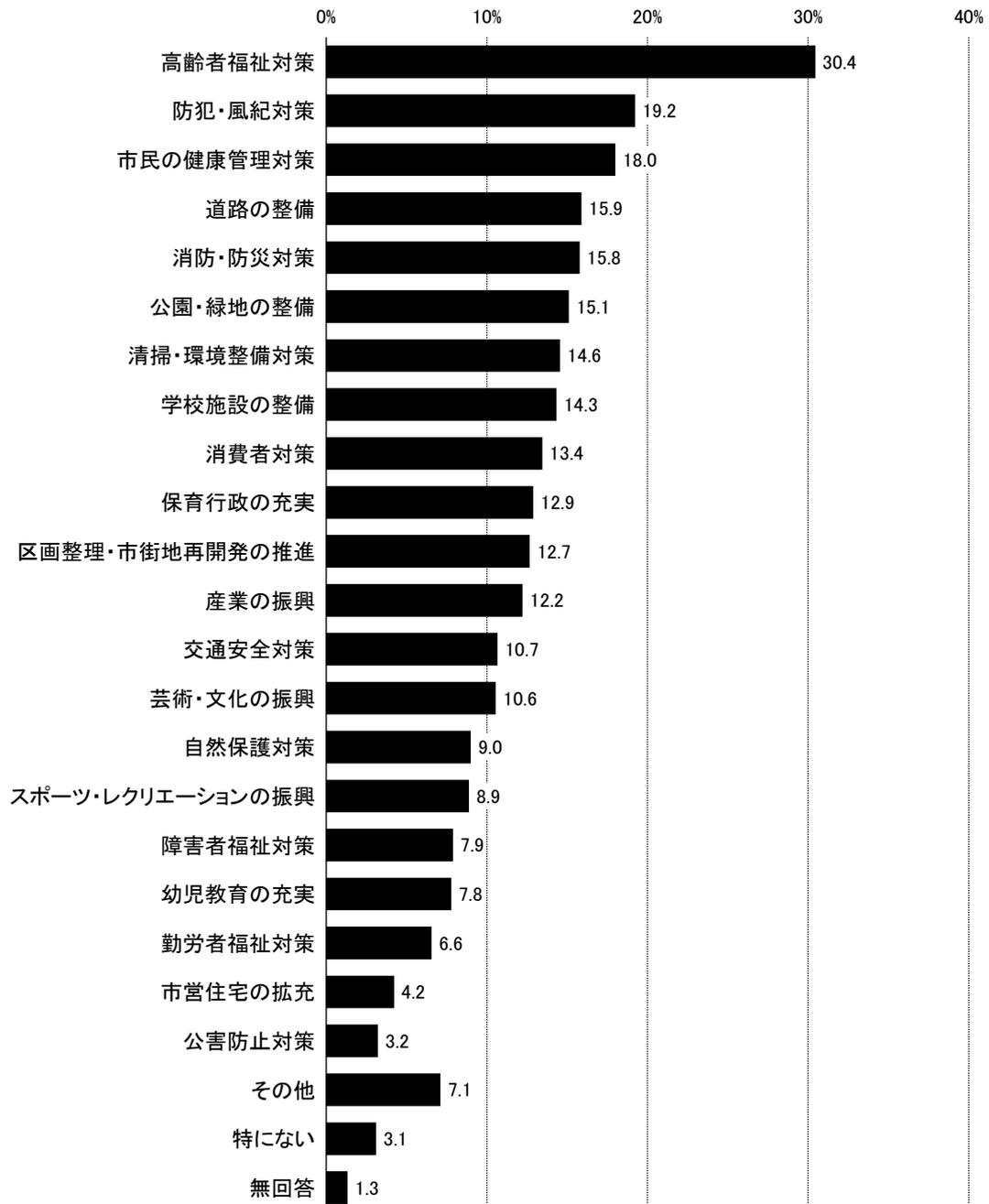


【市への要望】について

■ 府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと (n=900 : 複数回答)

「高齢者福祉対策」(30.4%)、「防犯・風紀対策」(19.2%)、「市民の健康管理対策」(18.0%)、「道路の整備」(15.9%)の順で高い。

図 11 市への要望

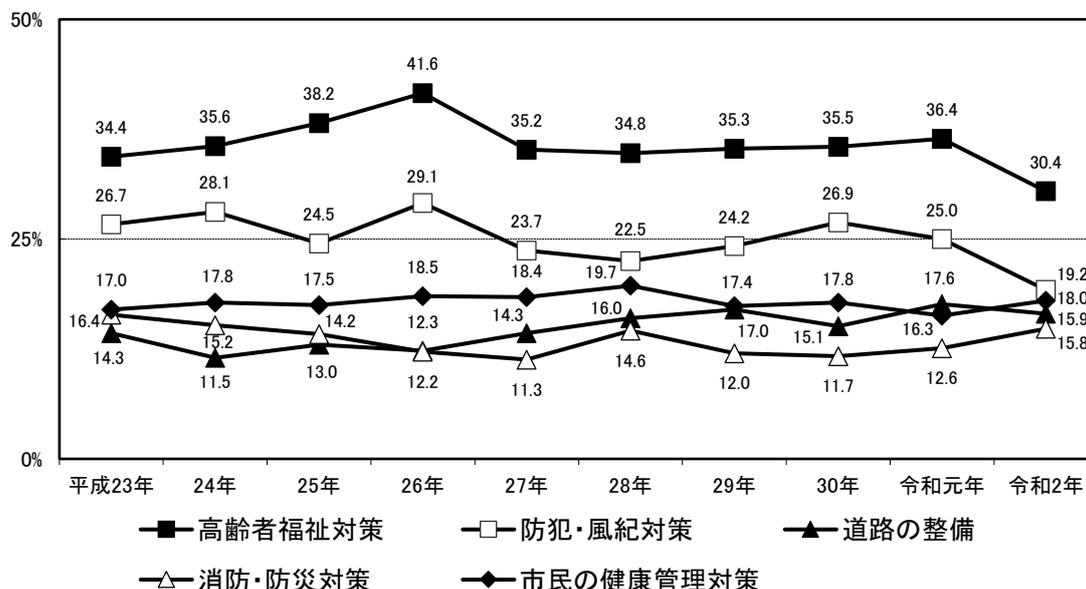


上位5項目について平成23年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は、常に1位となっている。2位の「防犯・風紀対策」も、常に2位になっている。3位の「市民の健康管理対策」は、昨年5位であったが、一昨年まで5年間、3位に入っている。4位の「道路の整備」は27年度より常に上位5位に入っている。5位の「消防・防災対策」は25年度から久々の上位である。

表3 経年推移 (上位5位)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
令和2年	900	高齢者福祉対策 30.4%	防犯・風紀対策 19.2%	市民の健康管理対策 18.0%	道路の整備 15.9%	消防・防災対策 15.8%
令和元年	992	高齢者福祉対策 36.4%	防犯・風紀対策 25.0%	道路の整備 17.6%	交通安全対策 17.1%	市民の健康管理対策 16.3%
平成30年	1021	高齢者福祉対策 35.5%	防犯・風紀対策 26.9%	市民の健康管理対策 17.8%	学校施設の整備 15.3%	道路の整備/ 清掃・環境整備対策 15.1%
29年	1103	高齢者福祉対策 35.3%	防犯・風紀対策 24.2%	市民の健康管理対策 17.4%	道路の整備 17.0%	保育行政の充実 15.4%
28年	996	高齢者福祉対策 34.8%	防犯・風紀対策 22.5%	市民の健康管理対策 19.7%	保育行政の充実 18.6%	道路の整備 16.0%
27年	824	高齢者福祉対策 35.2%	防犯・風紀対策 23.7%	市民の健康管理対策 18.4%	清掃・環境整備対策 15.7%	道路の整備/ 保育行政の充実 14.3%
26年	844	高齢者福祉対策 41.6%	防犯・風紀対策 29.1%	市民の健康管理対策 18.5%	清掃・環境整備対策 16.1%	保育行政の充実 14.3%
25年	836	高齢者福祉対策 38.2%	防犯・風紀対策 24.5%	清掃・環境整備対策 18.7%	市民の健康管理対策 17.5%	消防・防災対策 14.2%
24年	846	高齢者福祉対策 35.6%	防犯・風紀対策 28.1%	市民の健康管理対策 17.8%	交通安全対策 17.3%	消防・防災対策 15.2%
23年	835	高齢者福祉対策 34.4%	防犯・風紀対策 26.7%	清掃・環境整備対策 18.1%	市民の健康管理対策 17.0%	消防・防災対策 16.4%

図12 経年推移(上位5位)

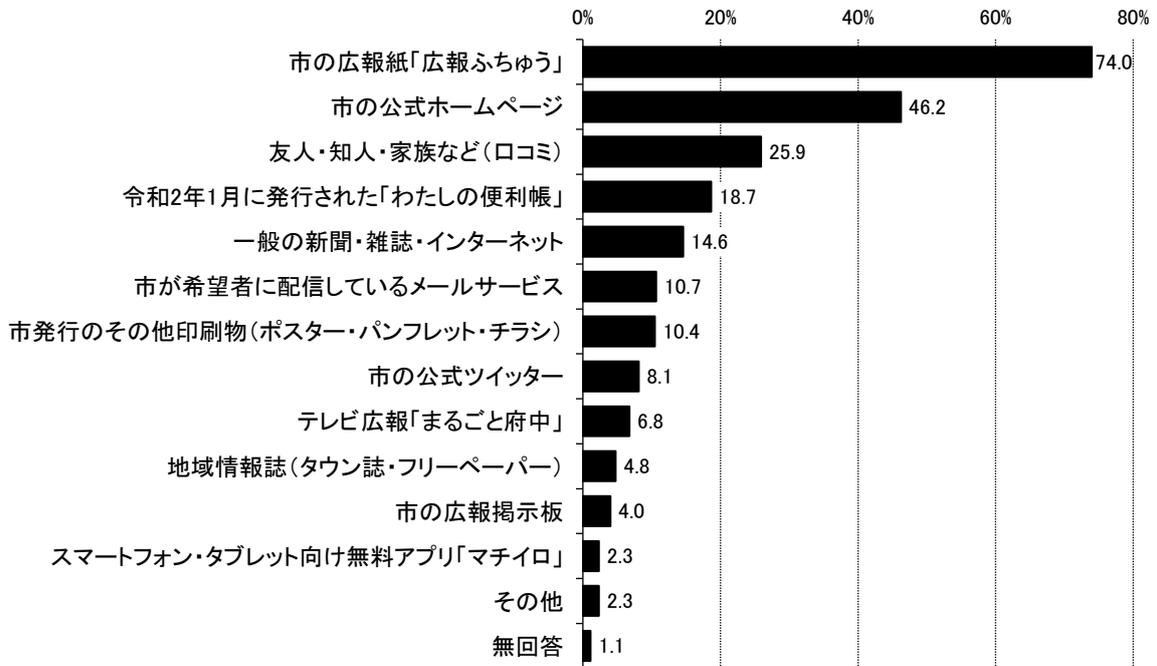


【広報・情報発信】について

■ 行政情報の入手手段 (n=900：複数回答)

「市の広報紙「広報ふちゅう」」(74.0%)が7割半ばを占め最も高い。次いで、「市の公式ホームページ」(46.2%)、「友人・知人・家族など(口コミ)」(25.9%)、「わたしの便利帳」(18.7%)と続いている。

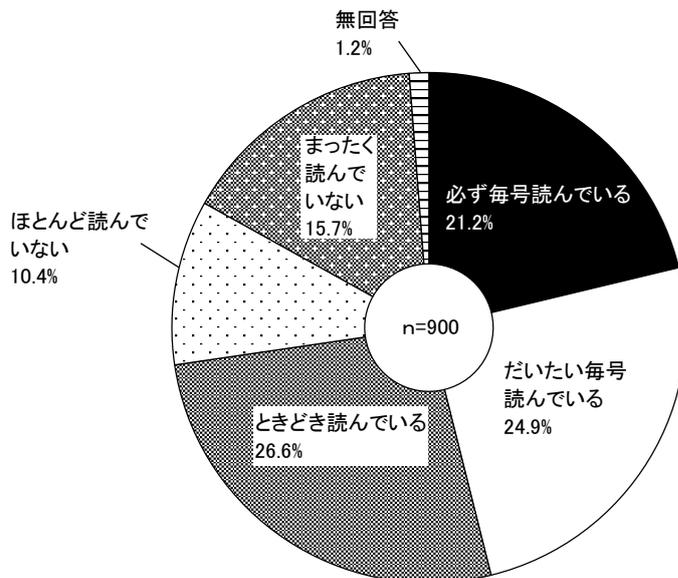
図 13 行政情報の入手手段



■ 「広報ふちゅう」を読む頻度 (n=900)

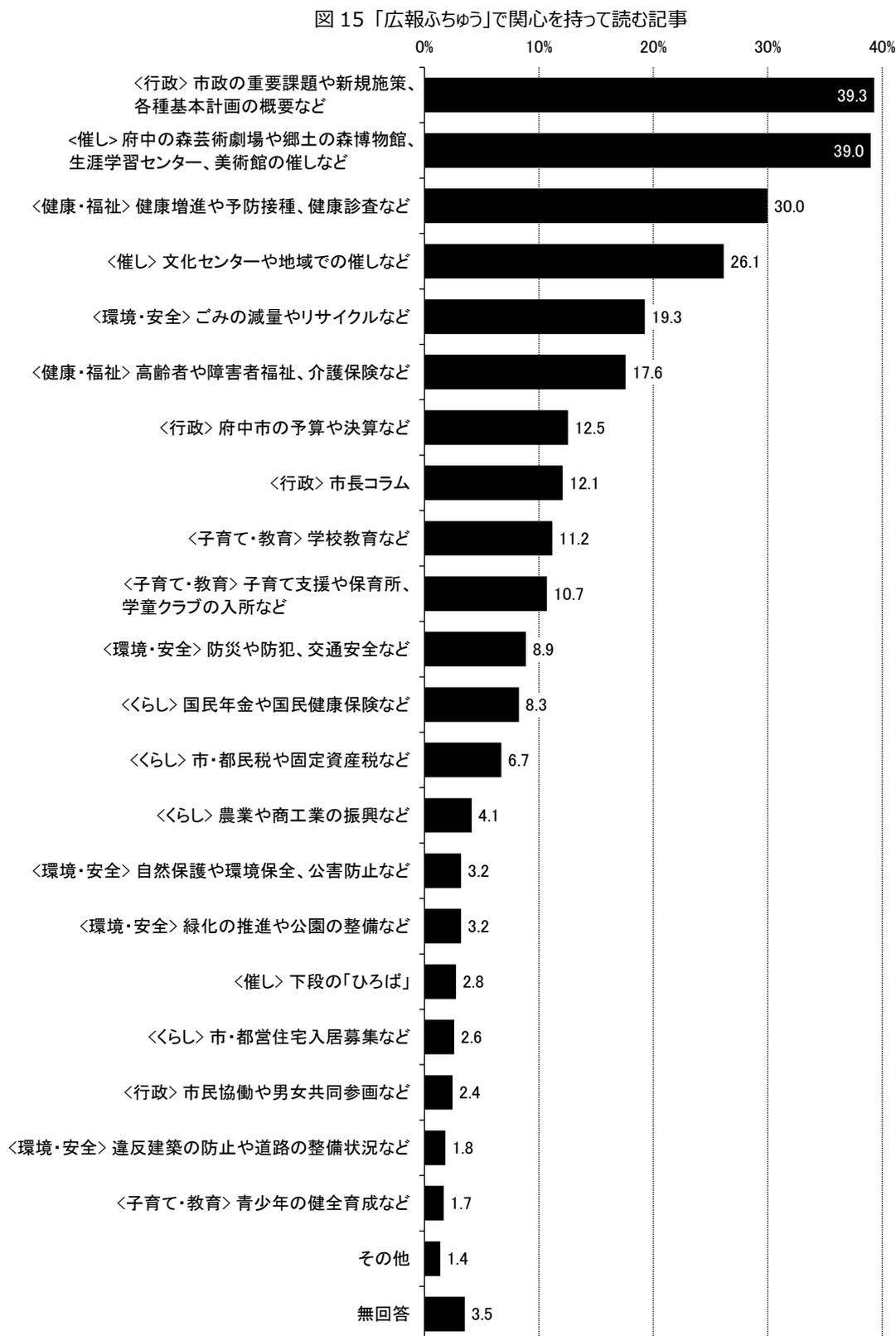
「必ず毎号読んでいます」(21.2%)、「だいたい毎号読んでいます」(24.9%)、「ときどき読んでいます」(26.6%)を合わせた『「広報ふちゅう」を読んでいる』割合は、7割越え(72.7%)となっている。

図 14 「広報ふちゅう」を読む頻度



■「広報ふちゅう」で関心を持って読む記事（n=654：複数回答）

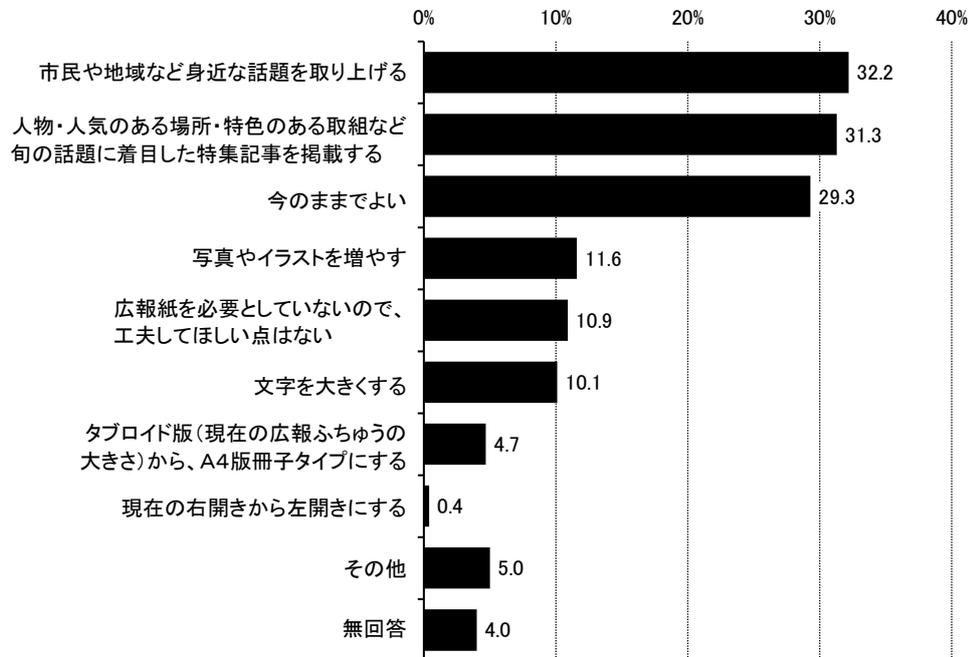
「〈行政〉市政の重要課題や新規施策、各種基本計画の概要など」(39.3%)が最も関心を持って読まれている記事となっている。



■「広報ふちゅう」で今後工夫してほしいこと（n=900：複数回答）

「市民や地域など身近な話題を取り上げる」(32.2%)が3割を占め、最も高い割合となっている。次いで、「人物・人気のある場所・特色のある取組など旬の話題に着目した特集記事を掲載する」(31.3%)、「今のままでよい」(29.3%)の順で高くなっている。

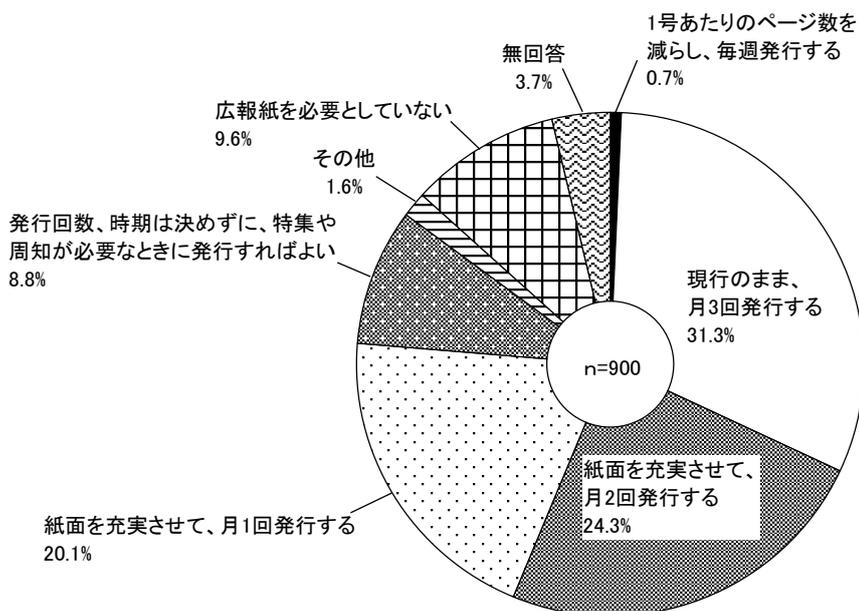
図 16 「広報ふちゅう」で今後工夫してほしいこと



■「広報ふちゅう」の発行頻度（n=900）

「現行のまま、月3回発行する」(31.3%)が3割を占めて最も高い。次いで、「紙面を充実させて、月2回発行する」(24.3%)、「紙面を充実させて、月1回発行する」(20.1%)の順になっている。

図 17 「広報ふちゅう」の発行頻度

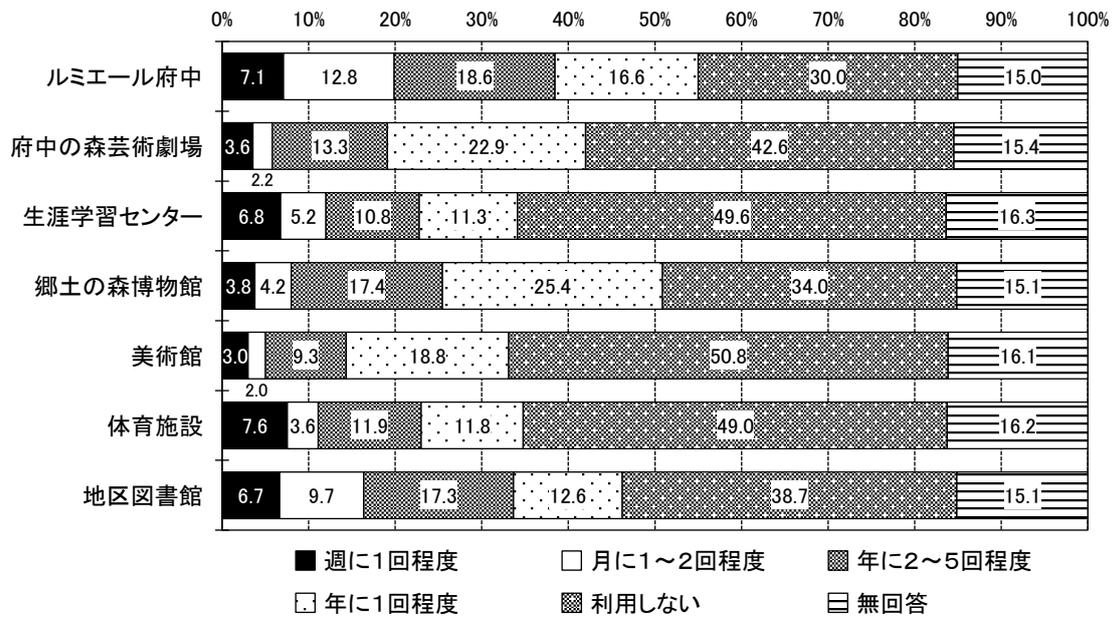


【文化・スポーツ施設の老朽化対策】について

■ 利用頻度について (n=900)

「利用しない」が全体的に3割以上を占めて最も高く、「美術館」(50.8%)、「生涯学習センター」(49.6%)、「体育施設」(49.0%)の順で高くなっている。

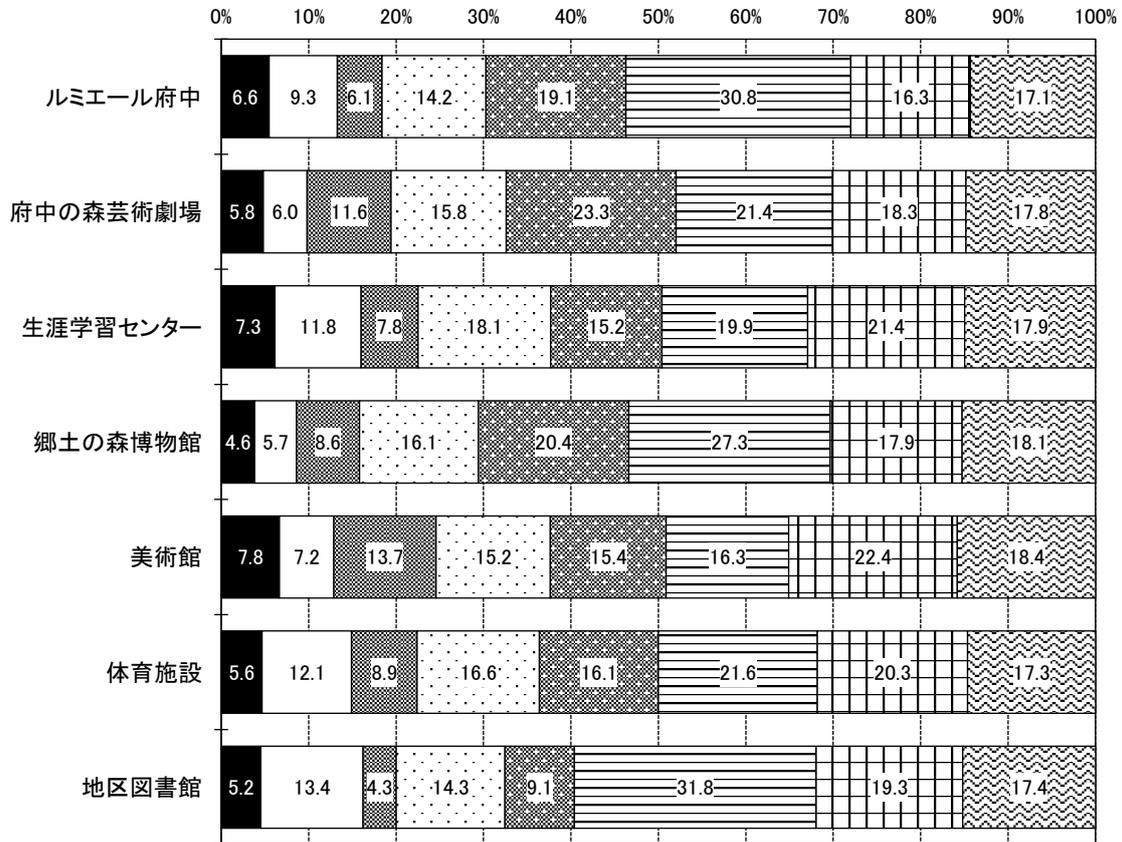
図 18 施設の利用頻度



■ 効果的な取組について (n=900 : 複数回答)

「施設をそのまま維持及び更新する」全体的に最も高く、「地区図書館」(31.8%)、「ルミエール府中」(30.8%)、「郷土の森博物館」(27.3%)の順で高くなっている

図 19 効果的な取組



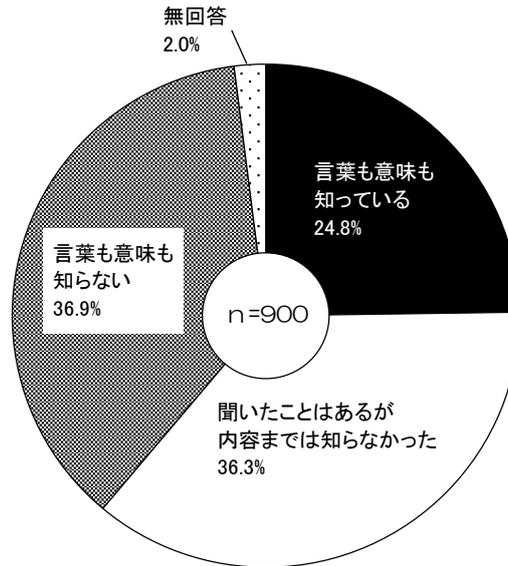
- 都や民間の施設で代用できる施設などを機能転換又は廃止する
- 類似施設との複合化や学校施設などの他分野の施設との集約化により、施設を削減する
- ▨ 施設を売却し、民営化して運営する
- ▤ 維持管理手法の見直し(指定管理者制度の導入や複数施設の包括的民間委託による施設管理など)や近隣市との共同運営等により、運営経費を削減する
- ▩ 有料広告の導入(ネーミングライツ、施設内に広告看板・電子表示板の設置など)や使用料の見直し等により、新たな収入を確保する
- ▭ 施設をそのまま維持及び更新する
- 田 わからない
- ⊠ 無回答

【市民協働の推進】について

■「協働」という言葉を知っているか (n=900)

「言葉も意味も知らない」(36.9%)が最も高い。続いて、「聞いたことはあるが内容までは知らなかった」(36.3%)、「言葉も意味も知っている」(24.8%)となっている。

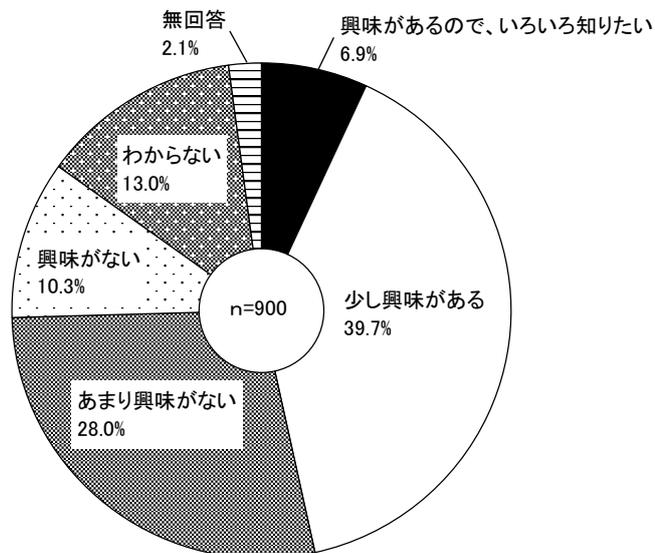
図 20 「協働」という言葉を知っているか



■「協働」について興味があるか (n=900)

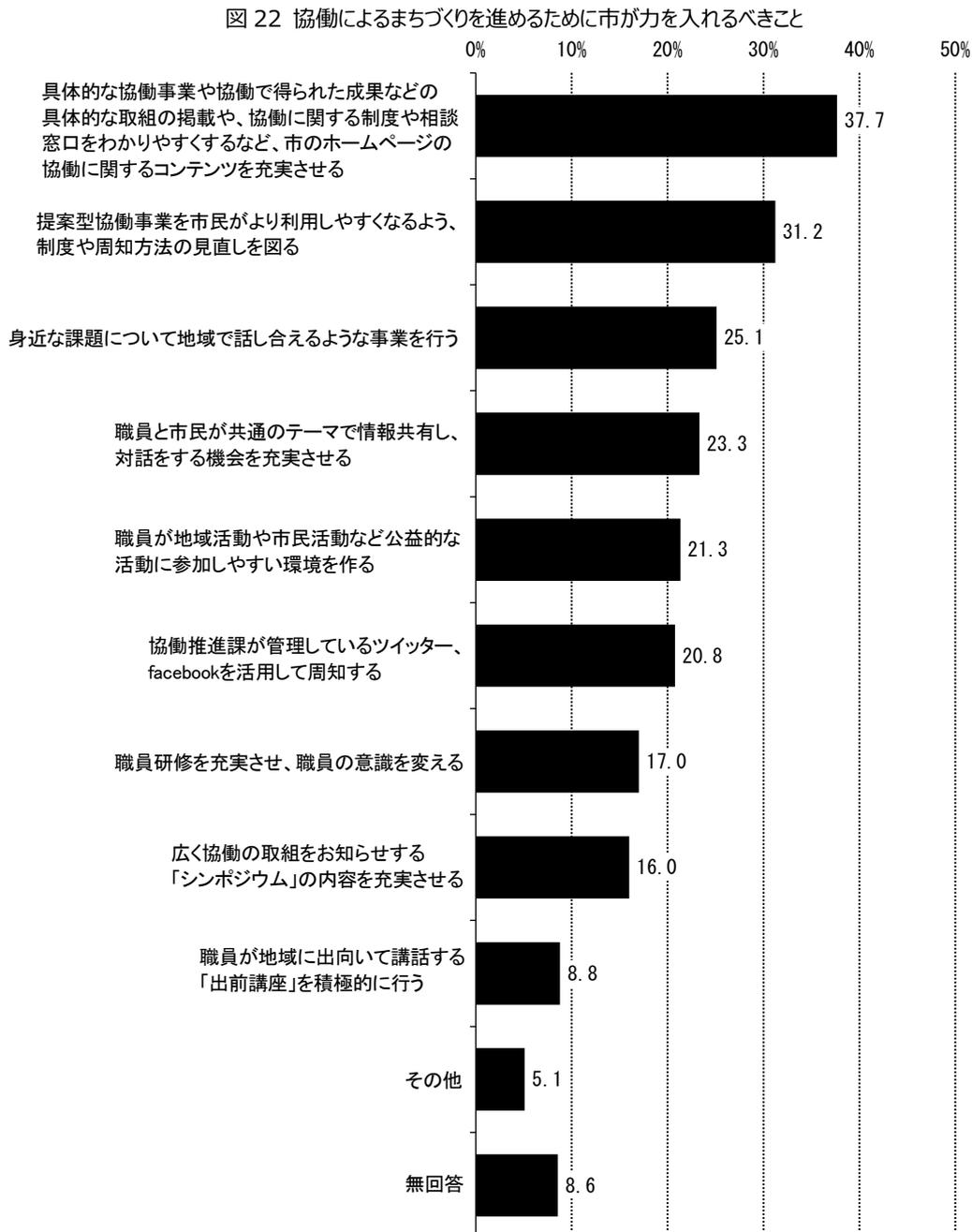
「少し興味がある」(39.7%)が最も高く、続いて、「あまり興味がない」(28.0%)、「わからない」(13.0%)、「興味がない」(10.3%)となっている。

図 21 「協働」について興味があるか



■ 協働によるまちづくりを進めるために市が力を入れるべきこと（n=900：複数回答）

「具体的な協働事業や協働で得られた成果などの具体的な取組の掲載や、協働に関する制度や相談窓口をわかりやすくするなど、市のホームページの協働に関するコンテンツを充実させる」（37.7%）が最も高い。続いて、「提案型協働事業を市民がより利用しやすくなるよう、制度や周知方法の見直しを図る」（31.2%）、「身近な課題について地域で話し合えるような事業を行う」（25.1%）、「職員と市民が共通のテーマで情報共有し、対話をする機会を充実させる」（23.3%）となっている。

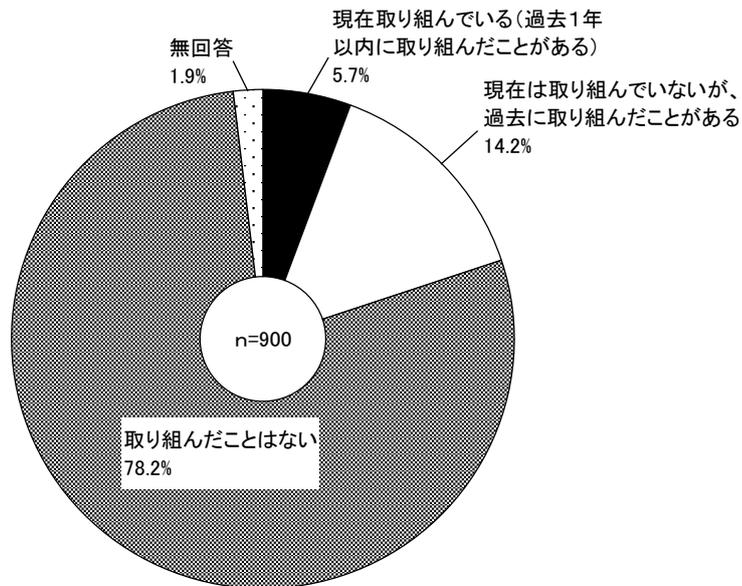


【市民活動】について

■「市民活動」に取り組んだことがあるか（n=900）

「取り組んだことはない」（78.2%）が最も高い。「現在取り組んでいる（過去1年以内に取り組んだことがある）」（5.7%）、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」（14.2%）を合わせた『取り組んだことがある』は2割程度となっている（19.9%）。

図 23 「市民活動」に取り組んだことがあるか

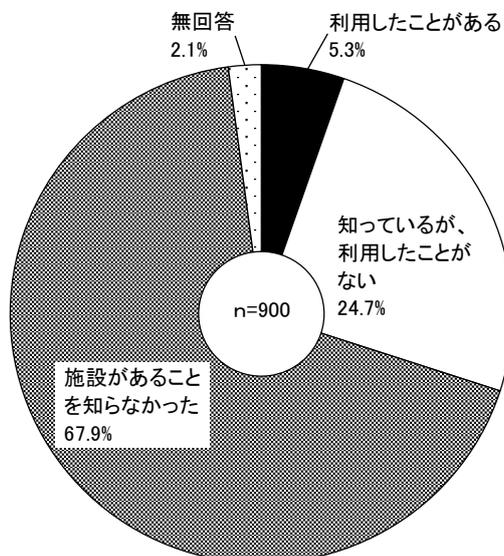


【男女共同参画社会】について

■「フチャール」を利用したことがあるか（n=900）

府中市男女共同参画センター「フチャール」の利用について、「施設があることを知らなかった」（67.9%）が最も高く、6割を超えている。「知っているが、利用したことがない」（24.7%）、「利用したことがある」（5.3%）の順になる。

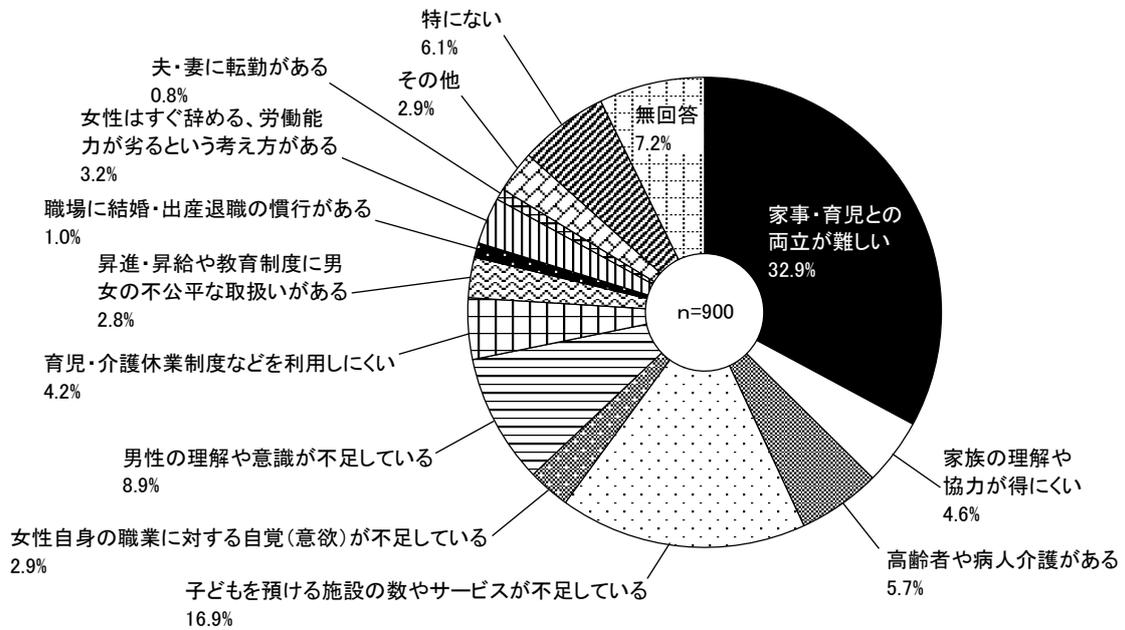
図 24 府中市男女共同参画センター「フチャール」の利用状況



■ 女性が職業を長く持ち続けていくうえで、壁になっているもの (n=900)

「家事・育児との両立が難しい」(32.9%)、「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」(16.9%)、「男性の理解や意識が不足している」(8.9%)の順で高い。

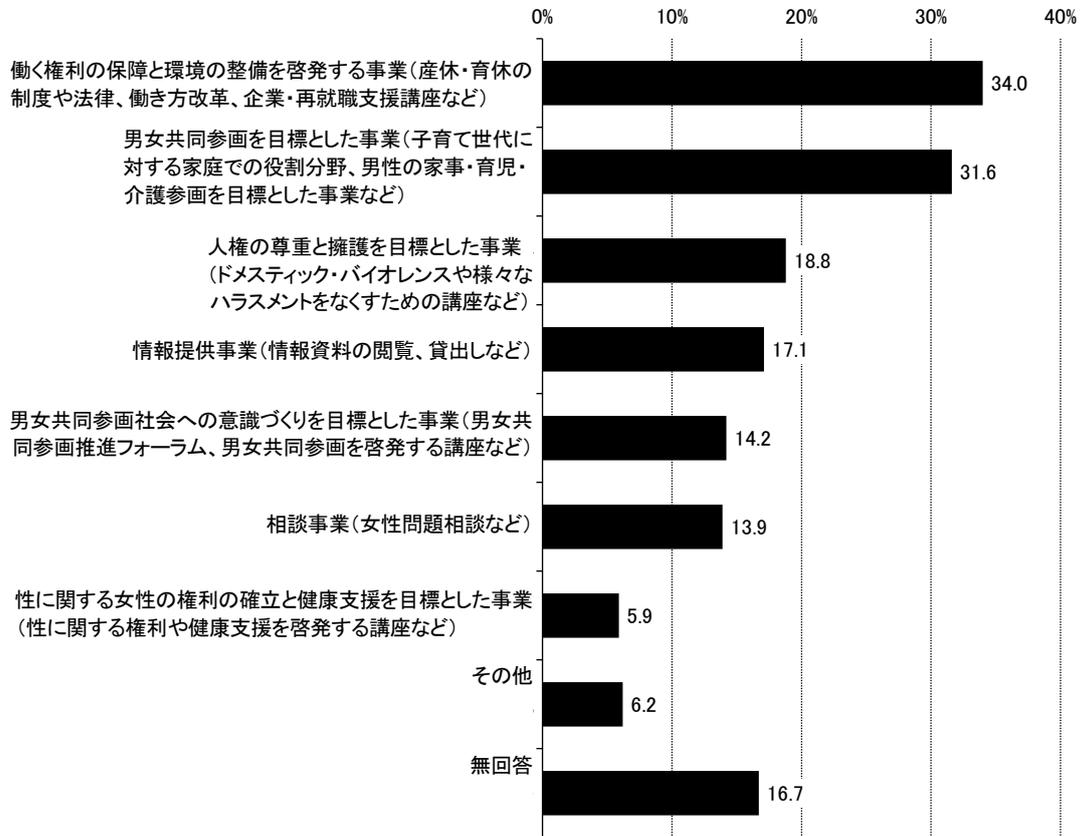
図 25 女性が職業を長く持ち続けていくうえで、壁になっているもの



■「フチャール」で参加したい、利用したい講座（n=900：複数回答）

「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」（34.0%）、「男女共同参画を目標とした事業」（31.6%）、「人権の尊重と擁護を目標とした事業」（18.8%）の順で高い。

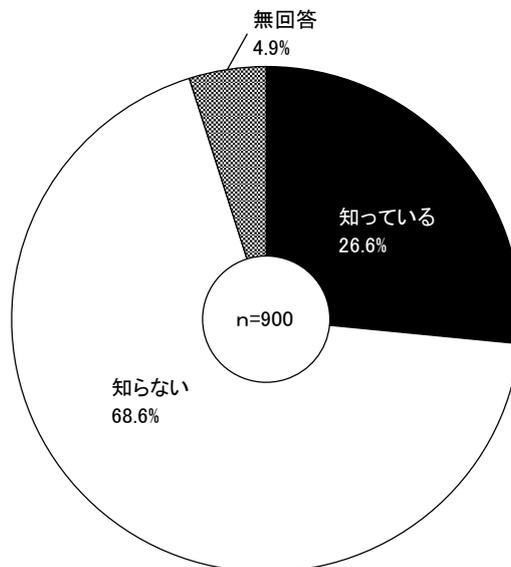
図 26 「フチャール」で参加したい、利用したい講座



■ 女性問題相談窓口を知っているか（n=900）

「知らない」（68.6%）、「知っている」（26.6%）で7割近くの人が存在を知らない。

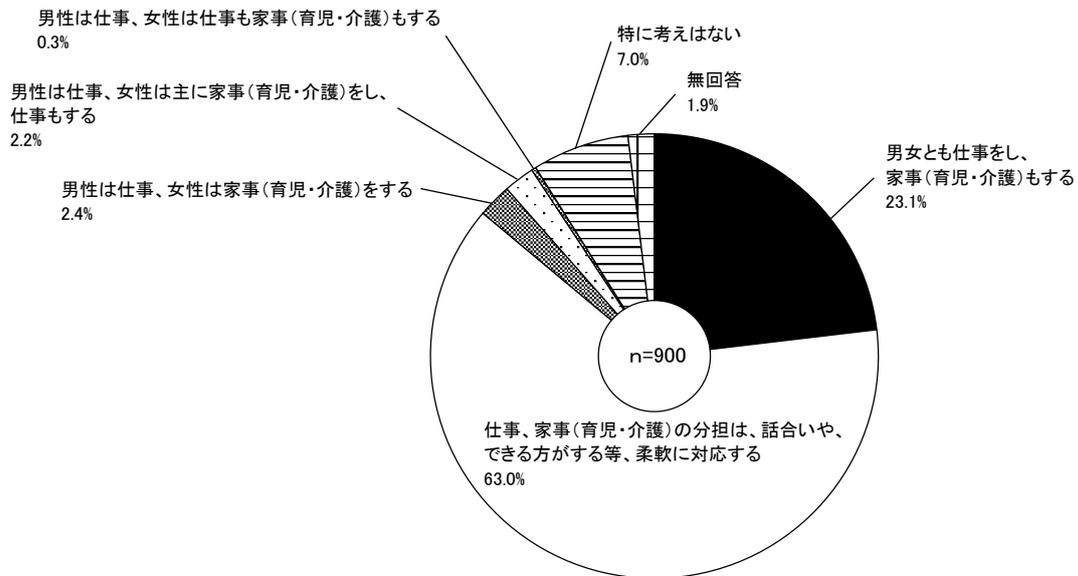
図 27 女性問題相談窓口を知っているか



■ 家庭における男女のあり方について (n=900)

「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する」(63.0%)、「男女とも仕事をし、家事(育児・介護)もする」(23.1%)、「特に考えはない」(7.0%)の順で高い。「女性は仕事、男性は家事(育児・介護)をする」、「女性は仕事、男性は主に家事(育児・介護)をし、仕事もする」、「女性は仕事、男性は仕事も家事(育児・介護)もする」の3つは、回答者がいない。

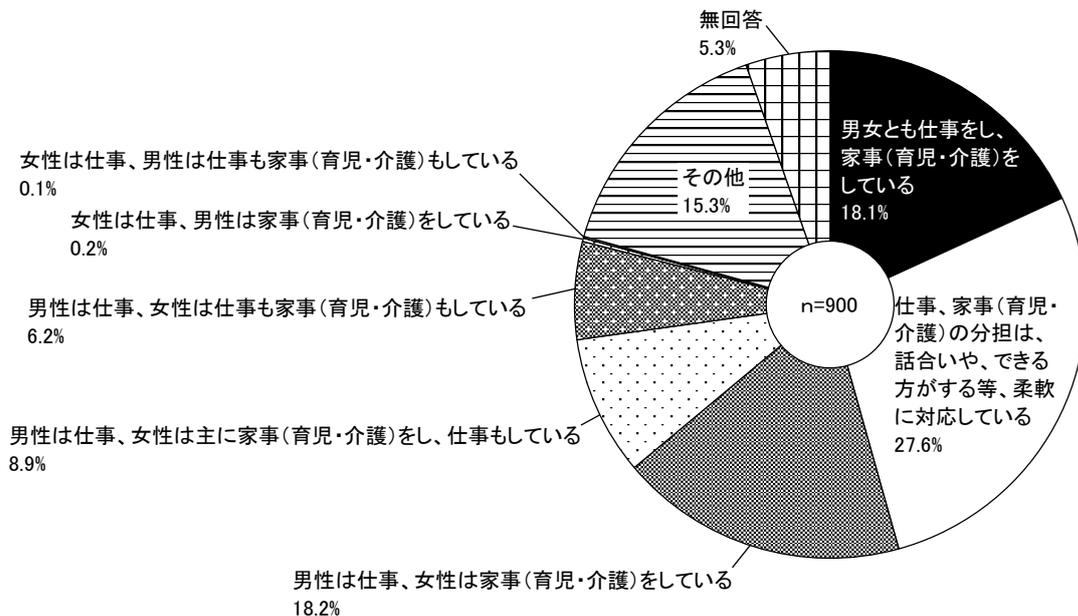
図 28 家庭における男女のあり方



■ 家庭の家事(育児・介護)の状況について (n=900)

「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応している」(27.6%)、「男性は仕事、女性に家事(育児・介護)をしている」(18.2%)、「男女とも仕事をし、家事(育児・介護)をしている」(18.1%)の順で高い。

図 29 家庭の家事(育児・介護)の状況

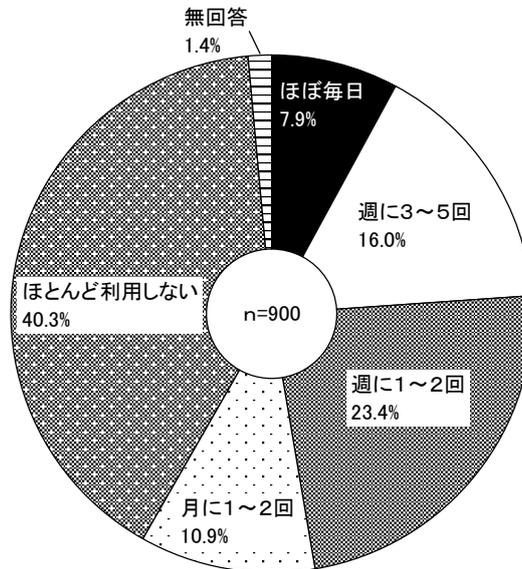


【商店街における消費者動向】について

■ 自宅近くの商店街の利用頻度 (n=900)

「ほとんど利用しない」(40.3%)、「週に1～2回」(23.4%)、「週に3～5回」(16.0%)、「月に1～2回」(10.9%)の順で高い。

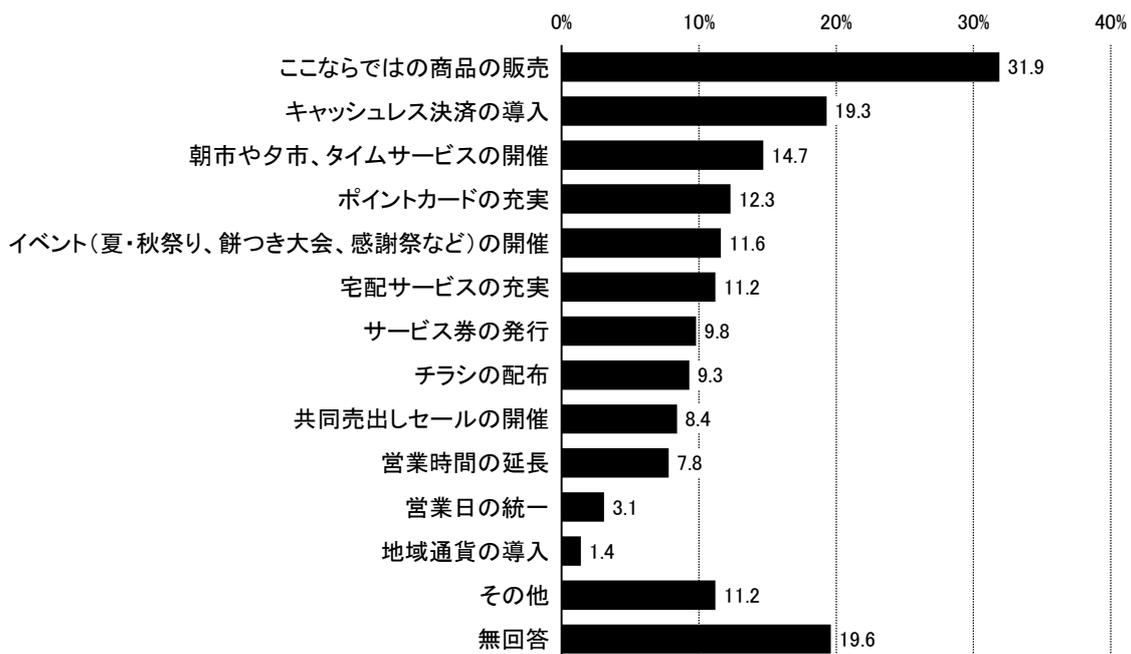
図 30 自宅近くの商店街の利用頻度



■ 自宅近くの商店街に期待するサービス (n=900：複数回答)

自宅近くの商店街に今後期待するサービスについては、「ここならではの商品の販売」(31.9%)で最も高い。続いて「キャッシュレス決済の導入」(19.3%)、「朝市や夕市、タイムサービスの開催」(14.7%)の順である。

図 31 自宅近くの商店街に今後期待するサービス

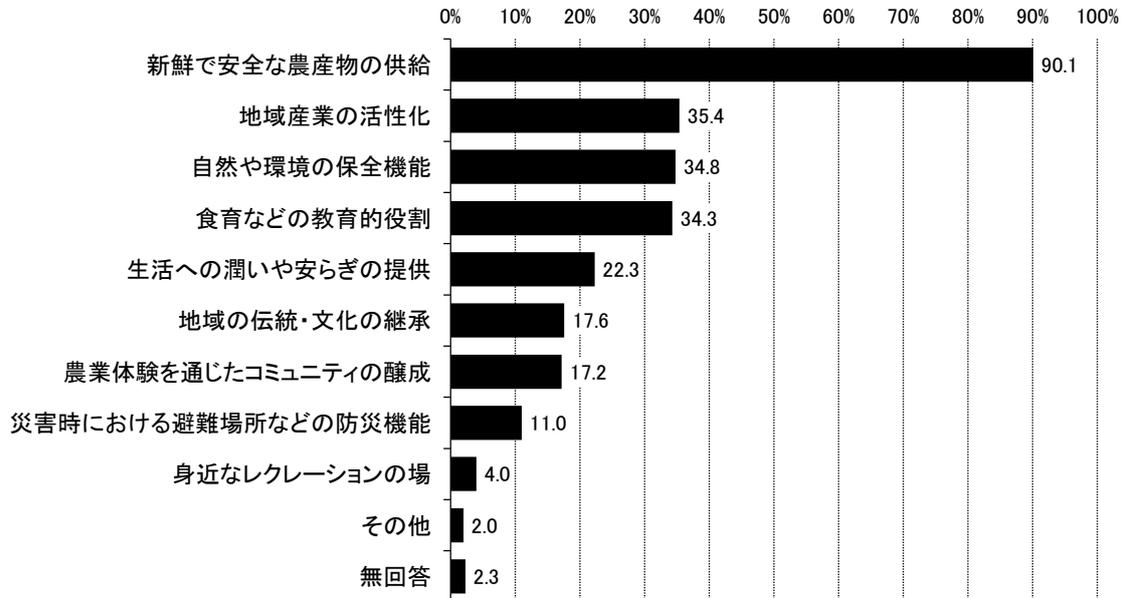


【農業】について

■ 農業について重要だと思うことは何か（n=900：複数回答）

「新鮮で安全な農産物の供給」(90.1%) が9割を超えて最も高く、「地域産業の活性化」(35.4%)、「自然や環境の保全機能」(34.8%)、「食育などの教育的役割」(34.3%)の順で高い。

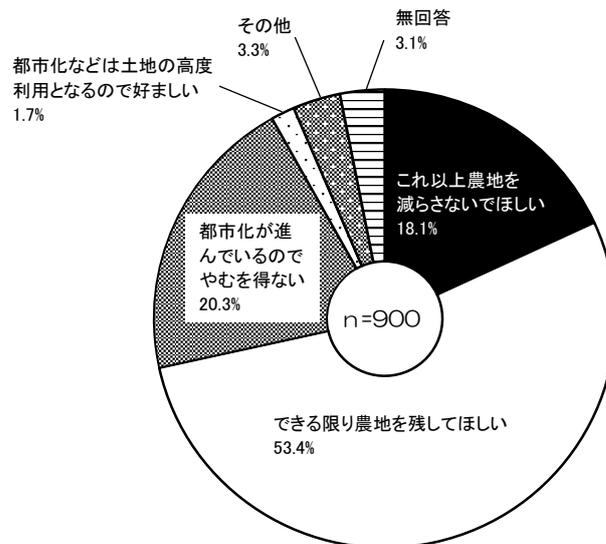
図 32 農業について重要だと思うこと



■ 市内の農地が減ることについて感じること（n=900）

市内の農地が減ることについて感じることは、「できる限り農地を残してほしい」(53.4%) が5割を超えて最も高く、「都市化が進んでいるのでやむを得ない」(20.3%)、「これ以上農地を減らさないでほしい」(18.1%)の順で高い。

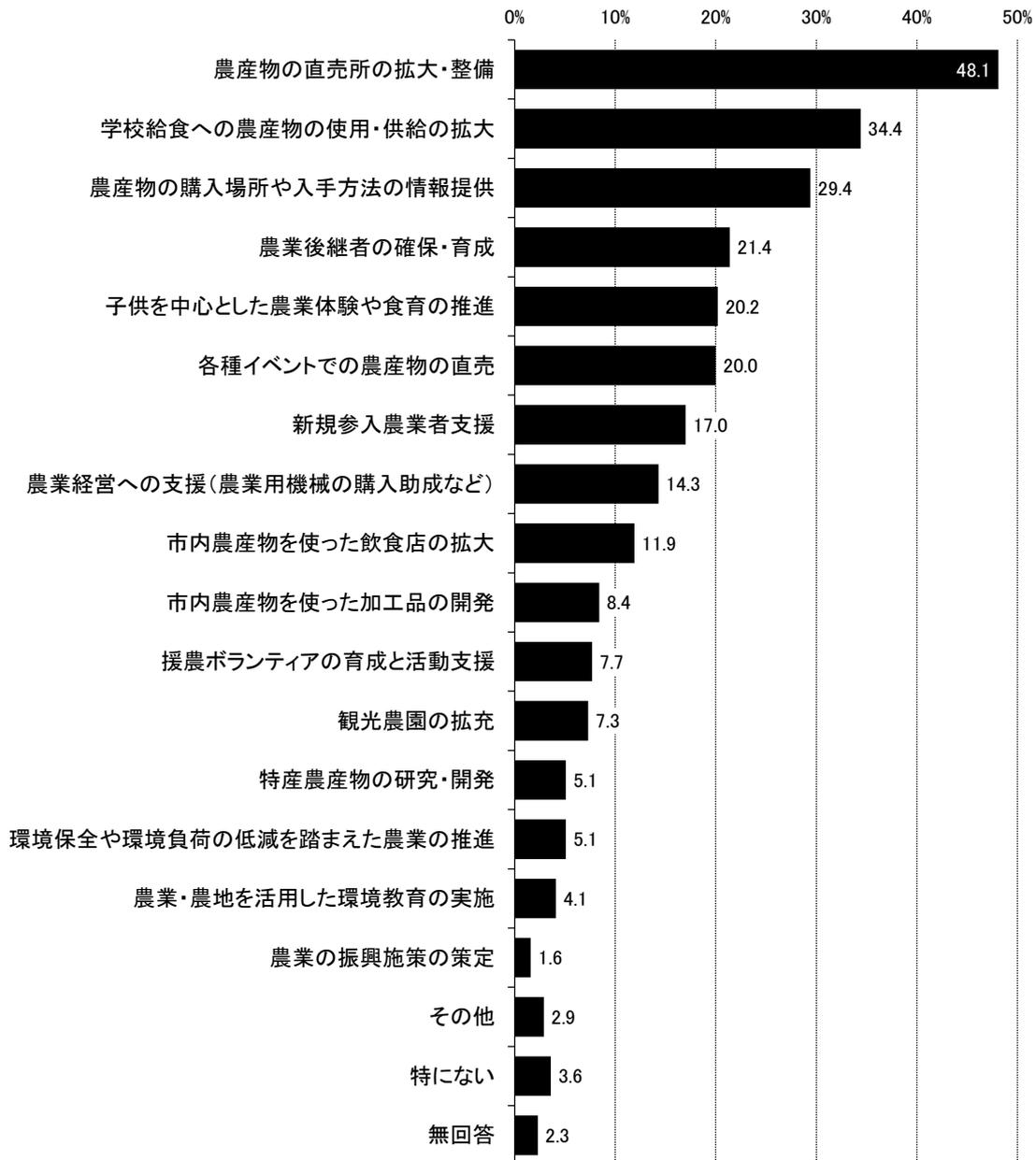
図 33 市内の農地が減ることについて感じること



■ 市の農業振興のために市が施策・事業に力を入れるべきこと（n=900：複数回答）

市の農業振興のために市が施策・事業に力を入れるべきことについては、「農産物の直売所の拡大・整備」(48.1%) が最も高く、「学校給食への農産物の使用・供給の拡大」(34.4%)、「農産物の購入場所や入手方法の情報提供」(29.4%)、「農業後継者の確保・育成」(21.4%) の順で高い。

図 34 市の農業振興のために市が施策・事業に力を入れるべきこと



【観光について】

■ 市の観光について知名度、来訪の有無、満足度 (n=900)

知名度は、「大國魂神社」(98.3%) が最も高い。続いて「多磨霊園」(94.6%)、「都立府中の森公園」(93.0%)、「J R A 東京競馬場 競馬博物館」(91.7%)となっている。

来訪の有無は、「大國魂神社」(95.6%) が最も高い。続いて「都立府中の森公園」(80.6%)、「馬場大門のケヤキ並木」(75.1%)、「郷土の森博物館 郷土の森観光物産館」(74.1%)となっている。

満足度は、「非常に良い」、「良い」、「やや良い」を合わせた『満足度の高い観光地』は、「サントリー東京・武蔵野ブルワリー」(97.7%)、「大國魂神社」(97.0%)、「J R A 東京競馬場 競馬博物館」(96.9%) の順で高い。

図 35 市の観光について(知名度)

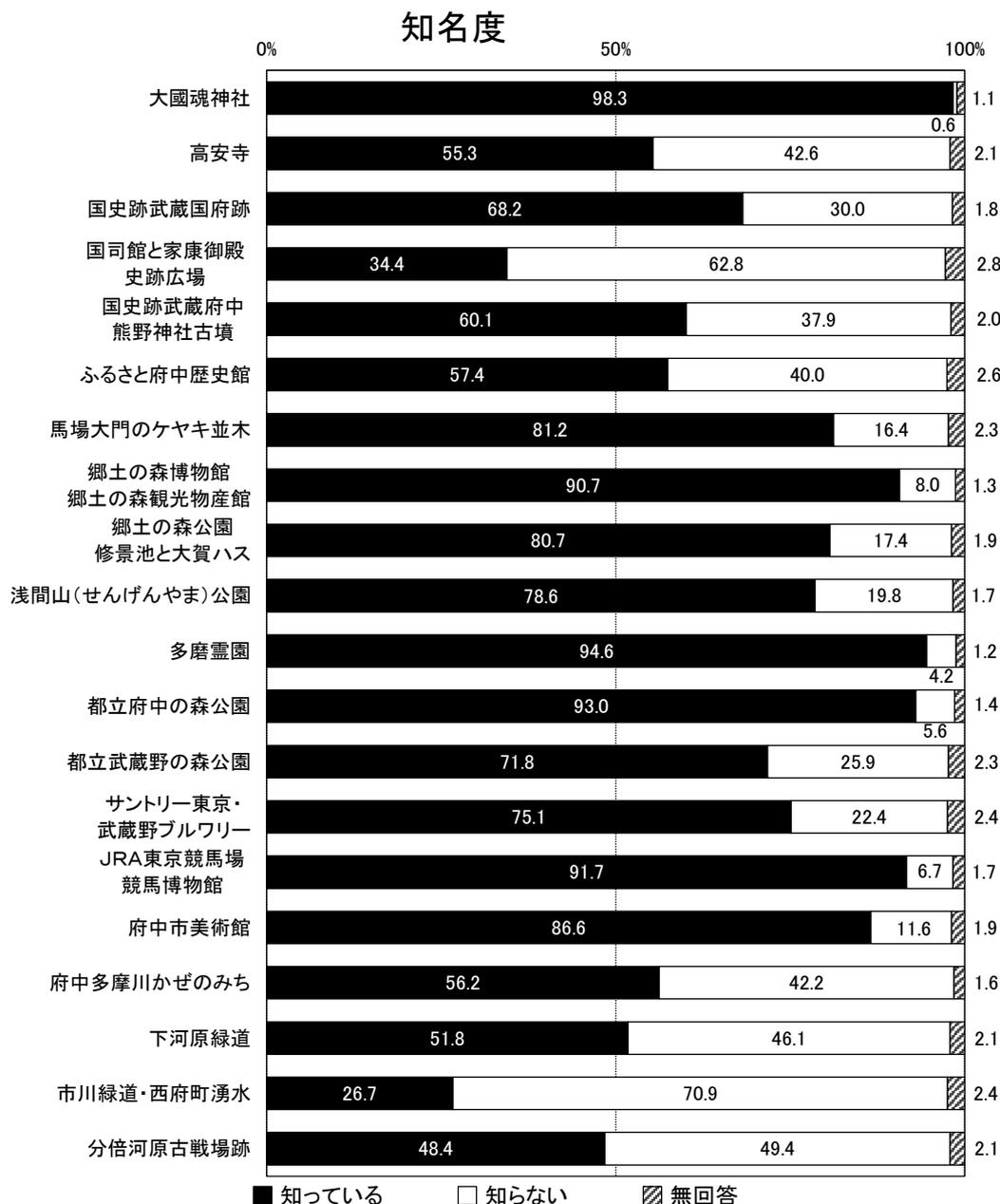


図 36 市の観光について(来訪の有無)

来訪の有無

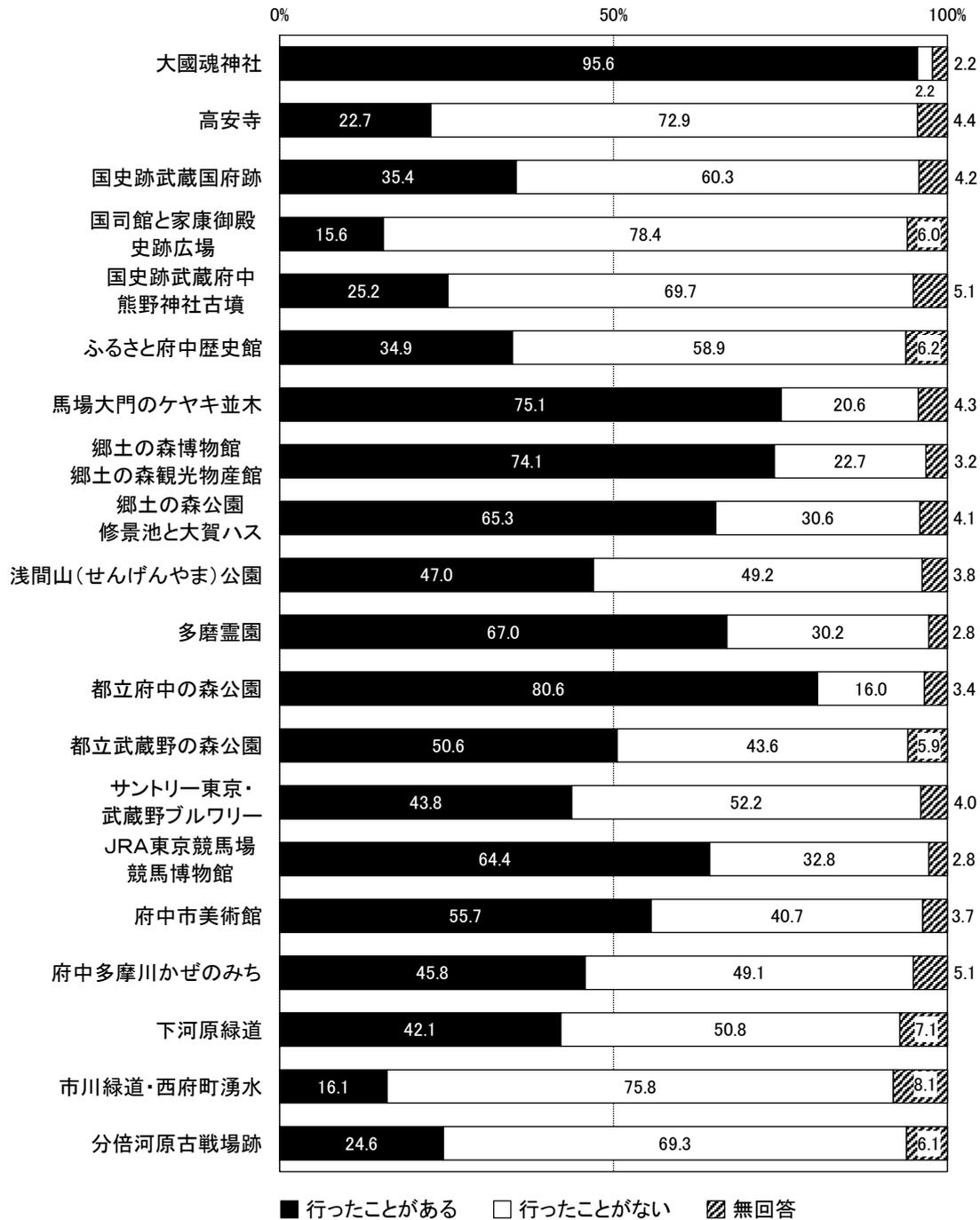
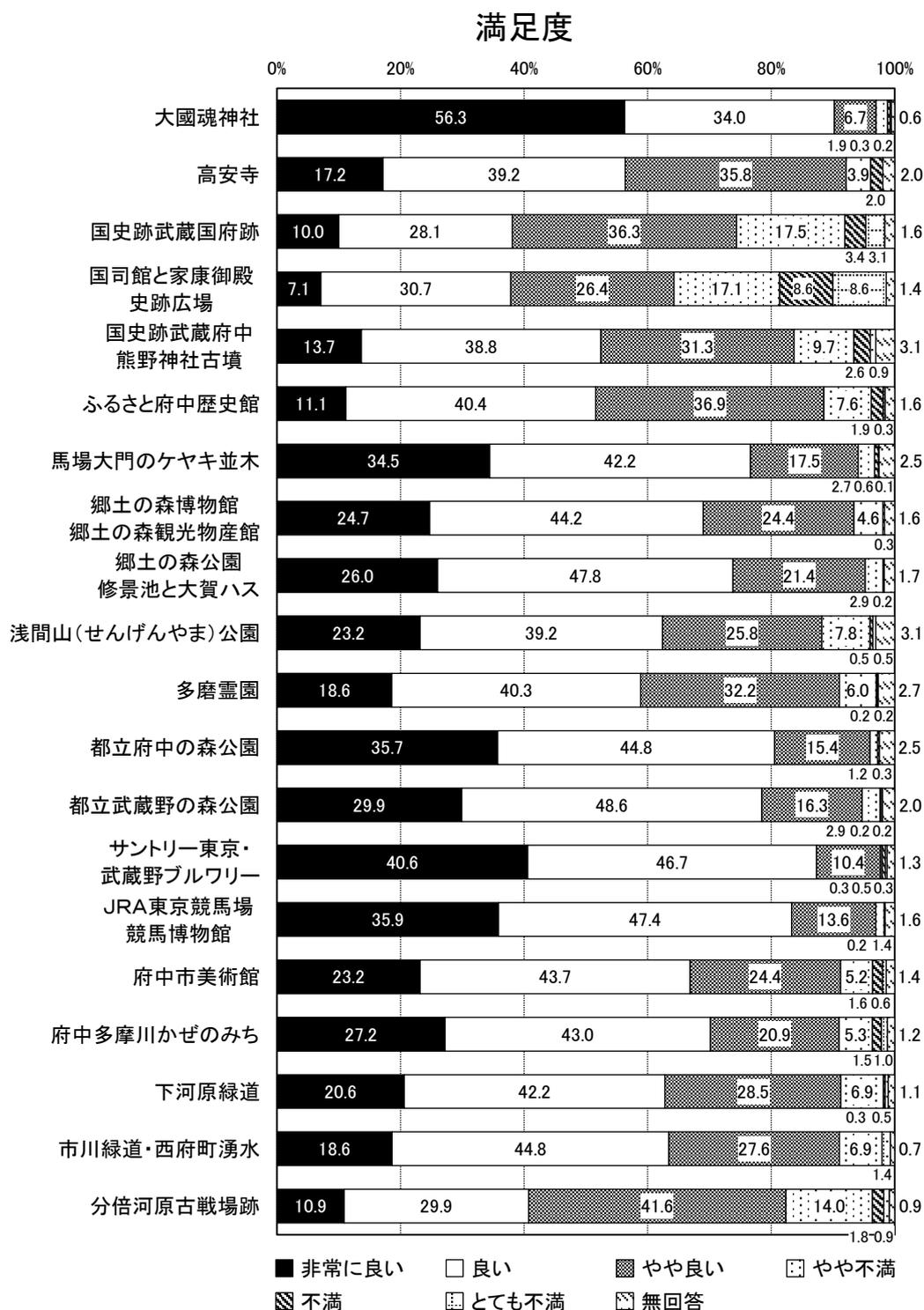


図 37 市の観光について(満足度)



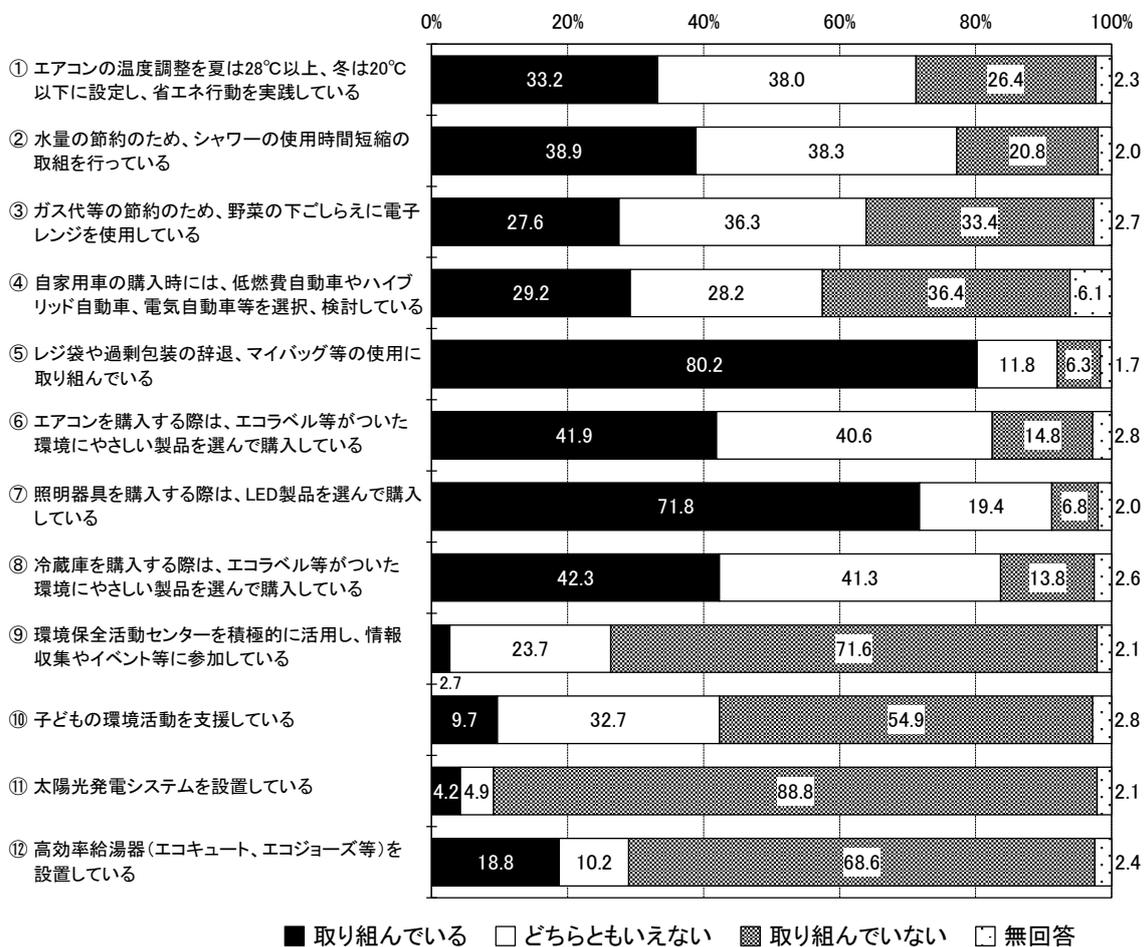
【環境問題に対する取組】について

■ 環境に関する取組（n=900）

「取り組んでいる」は、「レジ袋や過剰包装の辞退、マイバッグ等の使用に取り組んでいる」（80.2%）、「照明器具を購入する際は、LED 製品を選んで購入している」（71.8%）、「冷蔵庫を購入する際は、エコラベル等がついた環境にやさしい製品を選んで購入している」（42.3%）の順で高い。

「取り組んでいない」は、「太陽光発電システムを設置している」（88.8%）、「環境保全活動センターを積極的に活用し、情報収集やイベント等に参加している」（71.6%）、「高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズ等）を設置している」（68.6%）の順で高い。

図 38 環境に関する取組

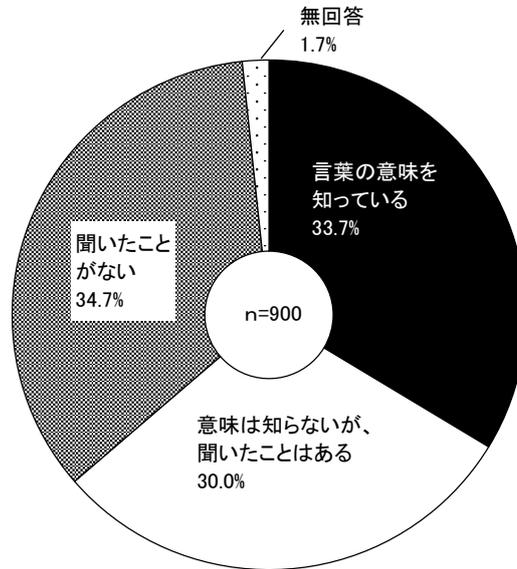


【生物多様性地域戦略】について

■「生物多様性」という言葉を知っているか (n=900)

「生物多様性」という言葉を知っているかについては、「聞いたことがない」(34.7%)が最も高い。続いて、「言葉の意味を知っている」(33.7%)、「意味は知らないが、聞いたことはある」(30.0%)の順となっている。

図 39 「生物多様性」という言葉を知っているか



■生物多様性保全活動に参加したいか (n=900)

「内容によっては参加したい」(39.2%)が最も高く、続いて、「わからない」(35.7%)、「参加したくない」(19.0%)の順になっている。

また、どのような生物多様性保全活動であれば参加したいかについては、「自然観察会(自然観察ウォーキングツアー等)」(59.1%)、「自然体験活動(水辺の楽校等)」(31.9%)、「生きもの調査(自然環境調査等)」(27.2%)の順になっている。

図 40 生物多様性保全活動に参加したいか

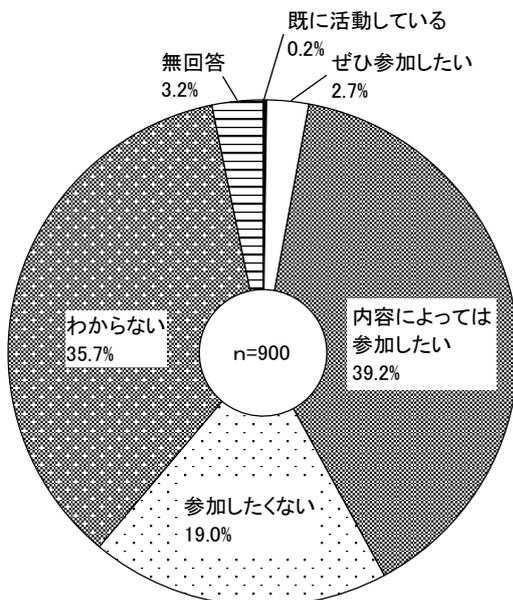
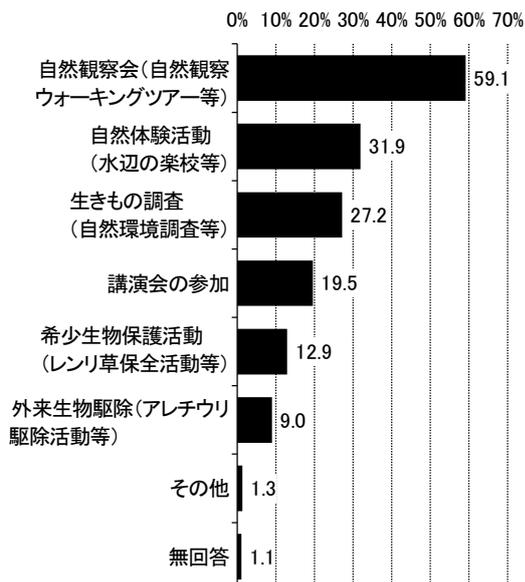


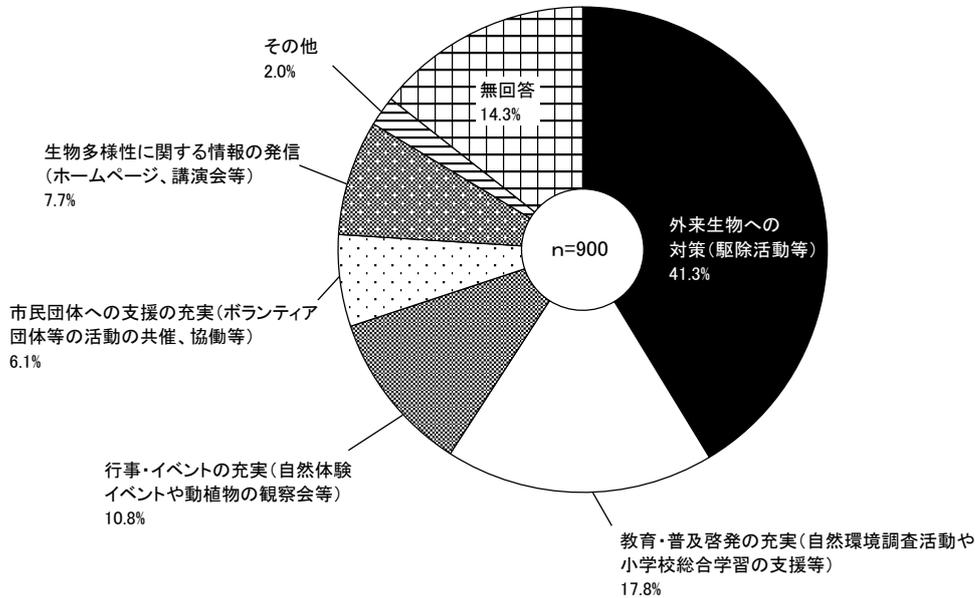
図 41 参加したいと思う保全活動 [複数回答: n=900]



■ 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること (n=900)

「外来生物への対策」(41.3%)が最も高く、続いて、「教育・普及啓発の充実」(17.8%)、「行事・イベントの充実」(10.8%)となっている。

図 42 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること

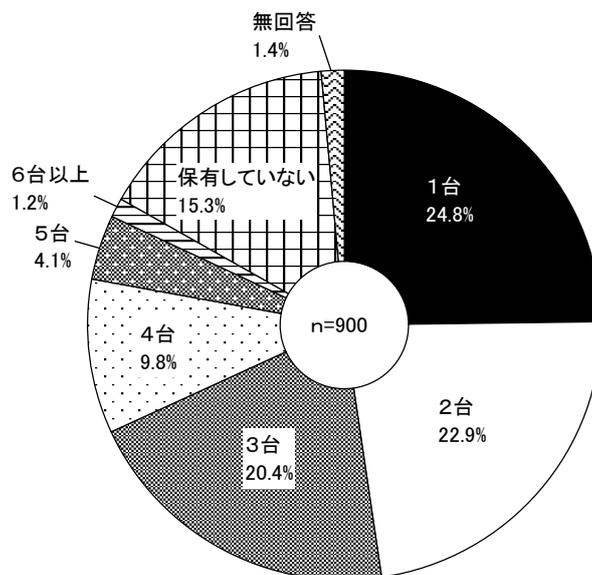


【自転車の利用】について

■ 自転車の保有台数について (n=900)

1台(24.8%)が最も多く、続いて、「2台」(22.9%)、「3台」(20.4%)の順となっている。また、「保有していない」は、15.3%である。

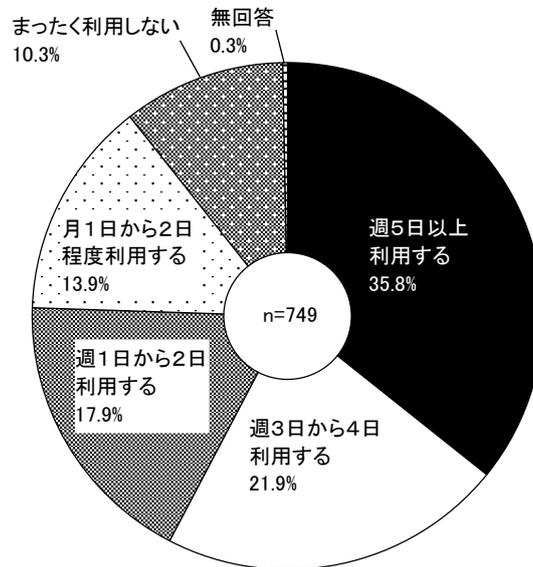
図 43 自転車の保有台数について



■ 自転車の利用頻度について (n=749)

「週5日以上利用する」(35.8%)が最も高い。続いて、「週3日から4日利用する」(21.9%)、「週1日から2日利用する」(17.9%)、「月1日から2日利用する」(13.9%)の順になっている。また、「まったく利用しない」は、10.3%である。

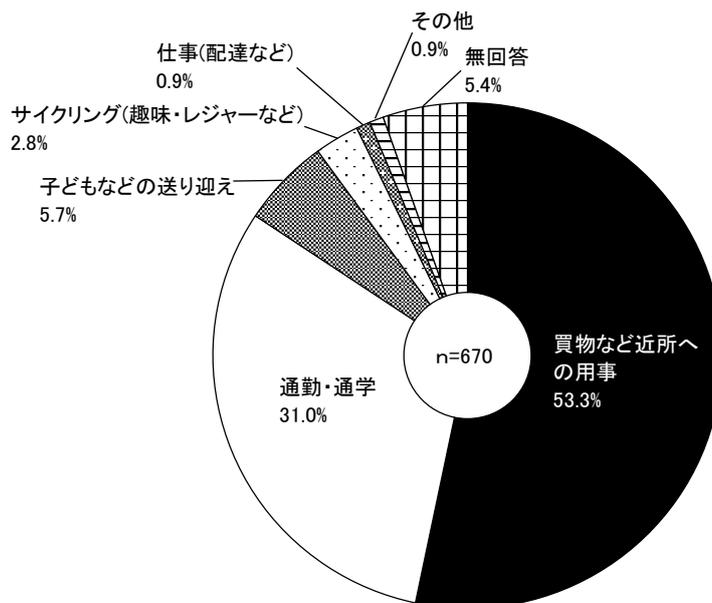
図 44 自転車の利用頻度について



■ 自転車を利用する主な目的について (n=670)

「買物など近所への用事」(53.3%)が最も多く、続いて、「通勤・通学」(31.0%)、「子どもなどの送り迎え」(5.7%)の順となっている。

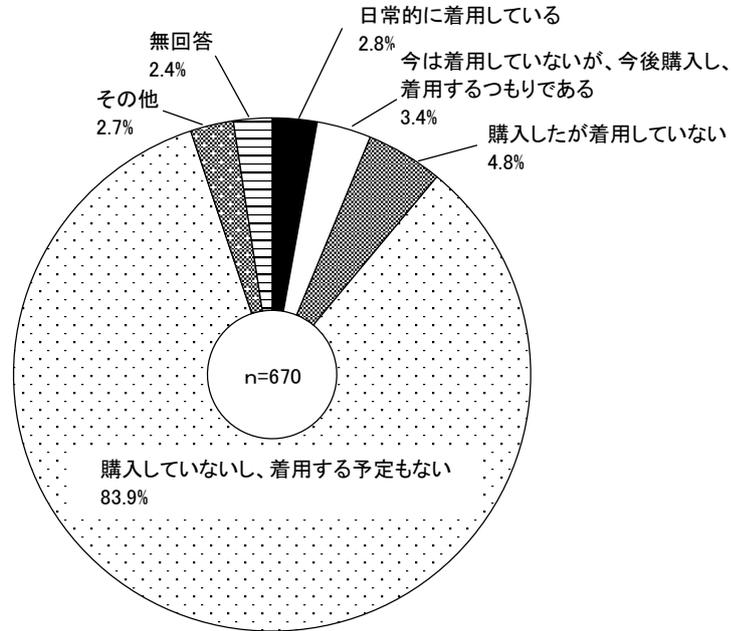
図 45 自転車を利用する主な目的について



■ 自転車乗用中のヘルメット着用について (n=670)

「購入していないし、着用する予定もない」(83.9%) が最も多く、続いて、「購入したが着用していない」(4.8%)、「今は着用していないが、今後購入し、着用するつもりである」(3.4%) の順となっている。

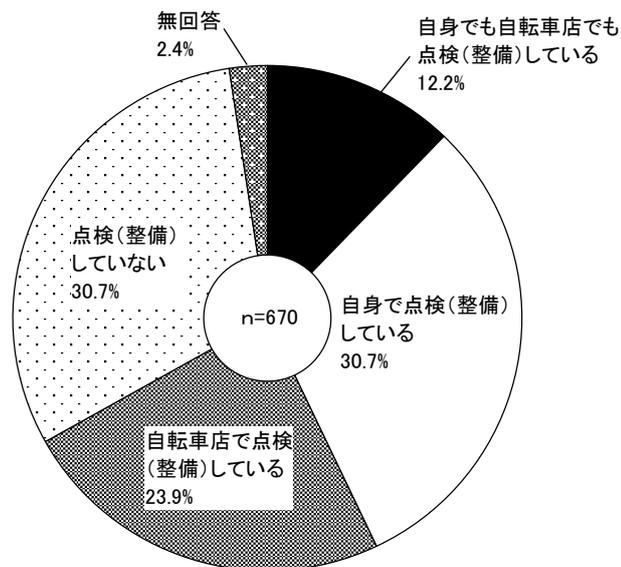
図 46 自転車乗用中のヘルメット着用について



■ 自転車の点検整備について (n=670)

「自身で点検(整備)している」と「点検(整備)していない」(30.7%)、「自転車店で点検(整備)している」(23.9%) の順になっている。

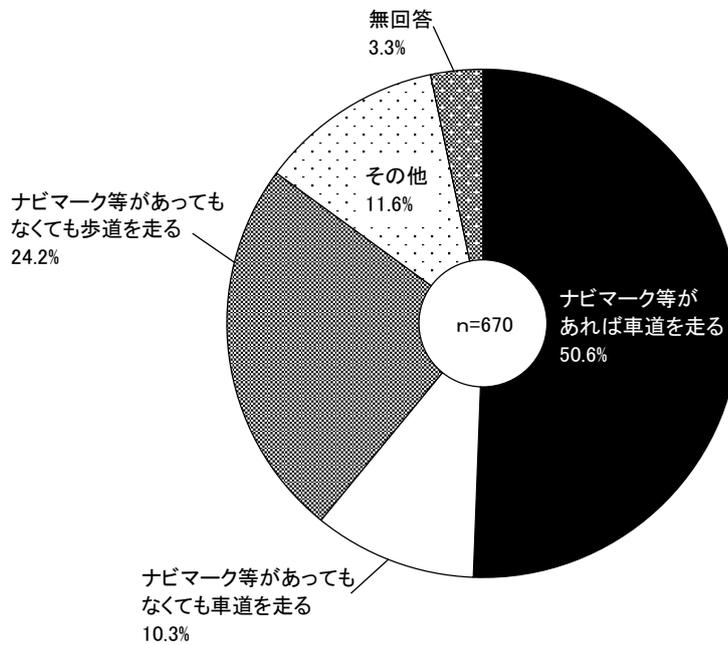
図 47 自転車の点検整備について



■「自転車ナビマーク」「自転車ナビライン」に対する行動（n=670）

「ナビマーク等があれば車道を走る（50.6%）」が最も多く、続いて、「ナビマーク等があってもなくても歩道を走る」（24.2%）、「その他」（11.6%）の順となっている。

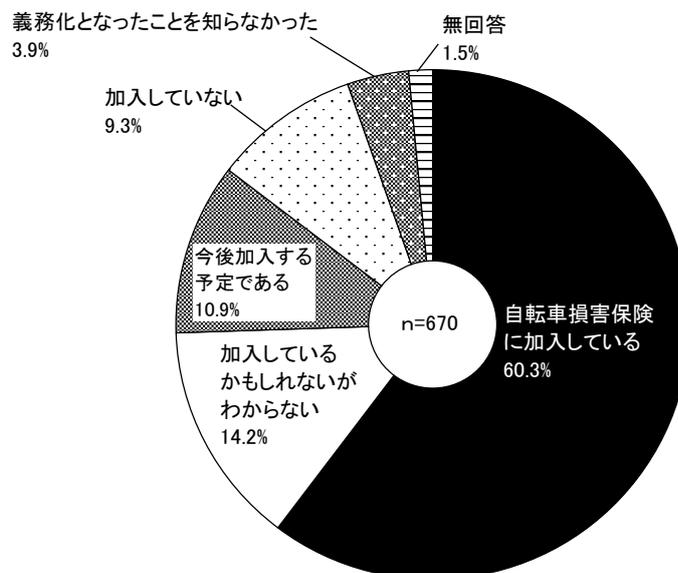
図 48 「自転車ナビマーク」「自転車ナビライン」に対する行動



■自転車損害保険の加入状況（n=670）

「自転車損害保険に加入している」（60.3%）」が最も多く、続いて、「加入しているかもしれないがわからない」（14.2%）、「今後加入する予定である」（10.9%）の順となっている。

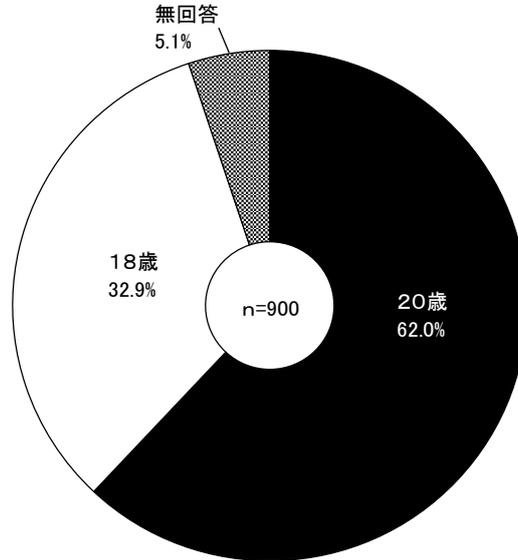
図 49 自転車損害保険の加入状況について



【成人式の対象年齢】について

- 成年年齢が18歳に引き下げられた後、成人式は何歳を対象とすべきか (n=900)
 成年年齢が18歳に引き下げられた後の成人式の対象年齢については、「20歳」(62.0%)、
 続いて、「18歳」(32.9%)の順になっている。

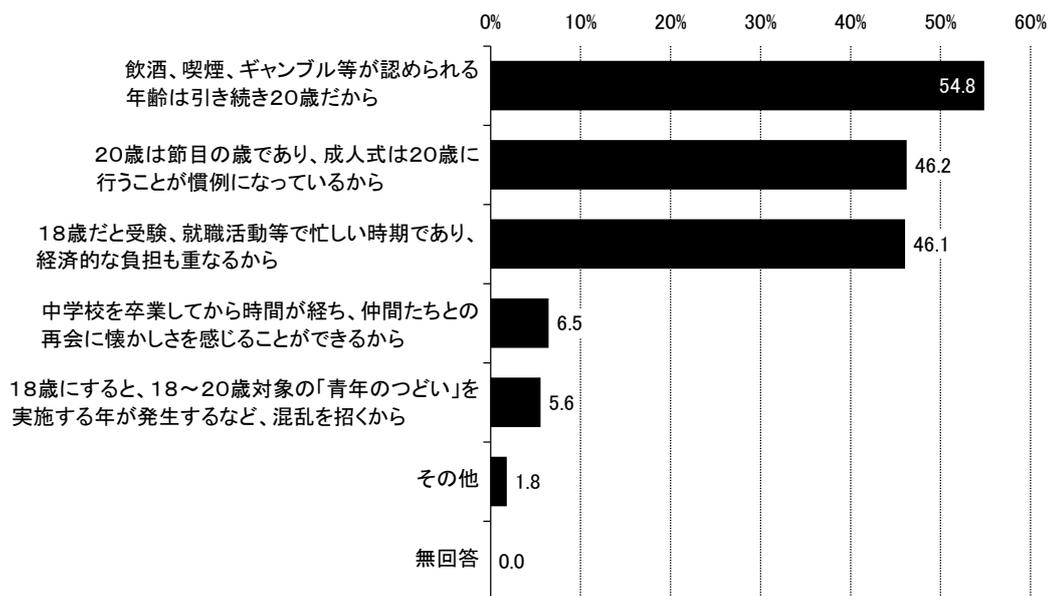
図 50 成年年齢が18歳に引き下げられた後の成人式の対象年齢について



- 成人式の対象年齢を20歳と選んだ理由 (n=558)

「飲酒、喫煙、ギャンブル等が認められる年齢は引き続き20歳だから」(54.8%)が最も多く、続いて「20歳は節目の歳であり、成人式は20歳に行うことが慣例になっているから」(46.2%)、「18歳だと受験、就職活動等で忙しい時期であり、経済的な負担も重なるから」(46.1%)の順となっている。

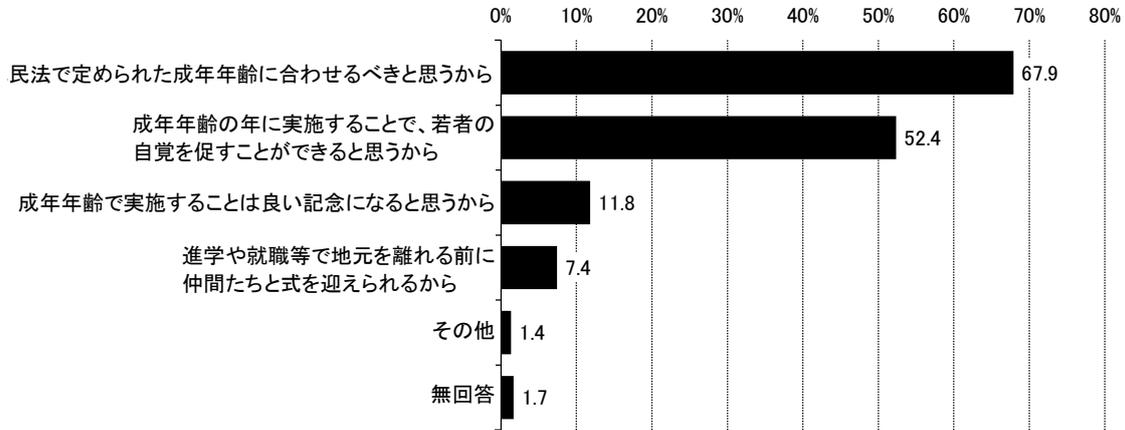
図 51 成人式の対象年齢を20歳と選んだ理由



■ 成人式の対象年齢を 18 歳と選んだ理由 (n=296)

「民法で定められた成年年齢に合わせるべきと思うから」(67.9%) が最も多く、続いて「成年年齢の年に実施することで、若者の自覚を促すことができると思うから」(52.4%)、「成年年齢で実施することは良い記念になると思うから」(11.8%) の順となっている。

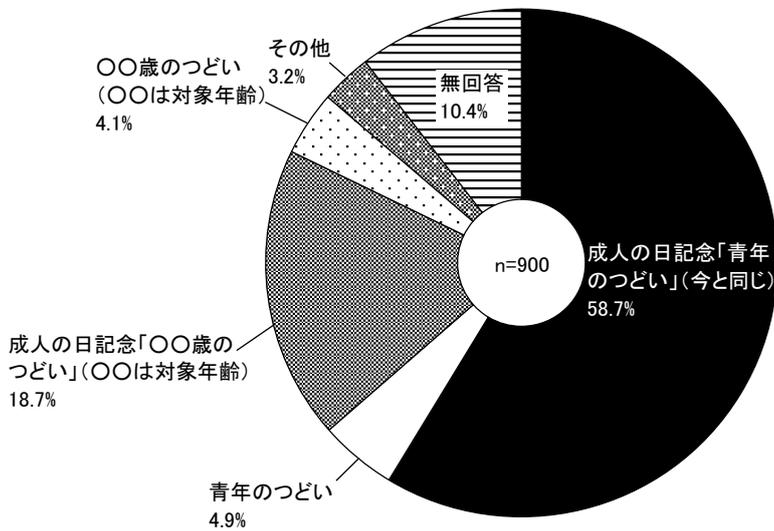
図 52 成人式の対象年齢を 18 歳と選んだ理由



■ 式典の名称はどのようなものがよいか (n=900)

式典の名称については、今と同じ「成人の日記念「青年のつどい」」(58.7%) が最も高く、続いて、「成人の日記念「〇〇歳のつどい」」(18.7%) の順になっている。

図 53 式典の名称について

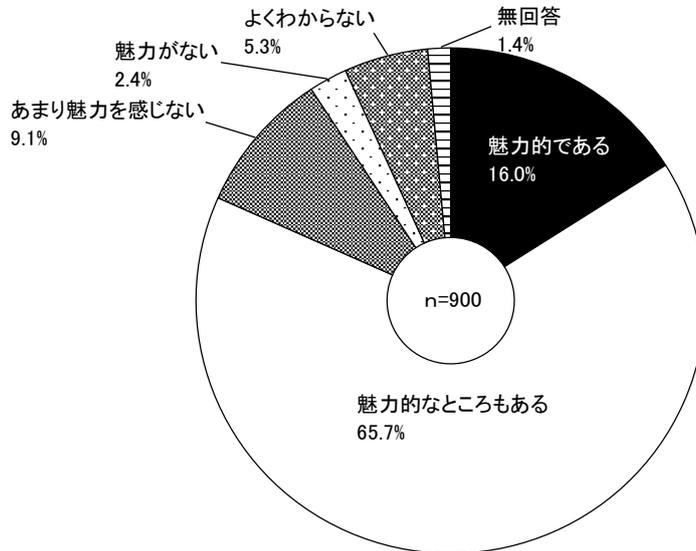


【景観まちづくり】について

■ 市の景観は魅力的か (n=900)

「魅力的なところもある」(65.7%) が最も高く、続いて、「魅力的である」(16.0%)、「あまり魅力を感じない」(9.1%) の順になっている。

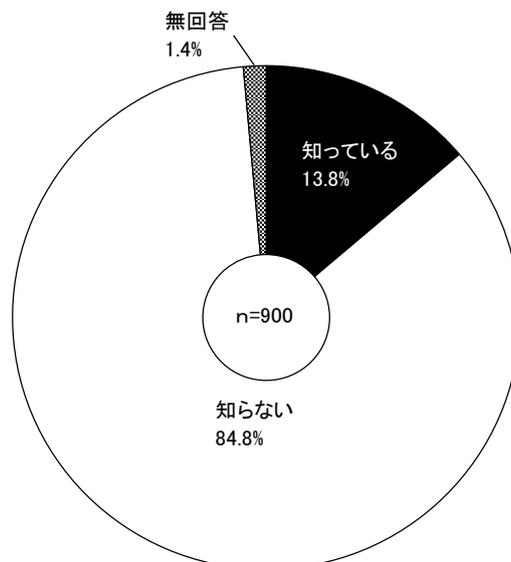
図 54 市の景観は魅力的か



■ 良好な景観形成を推進していることを知っているか (n=900)

「府中市景観計画」に基づき、市民・事業者・市の協働により良好な景観形成を推進していることを知っているかについて、「知らない」(84.8%) が8割を超えている。

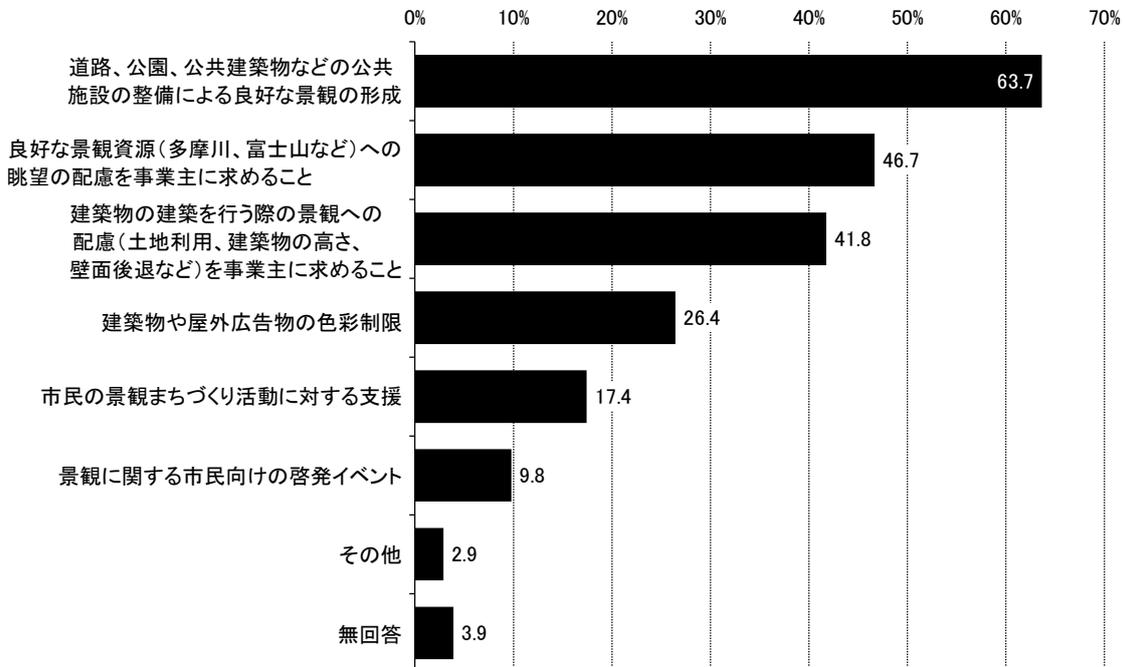
図 55 良好な景観形成を推進していることを知っているか



■ 景観まちづくりの取組について力をいれてほしいこと (n=900)

景観まちづくりの取組で、今後、市で力をいれてほしいことについて、「道路、公園、公共建築物などの公共施設の整備による良好な景観の形成」(63.7%)が6割を超えている。

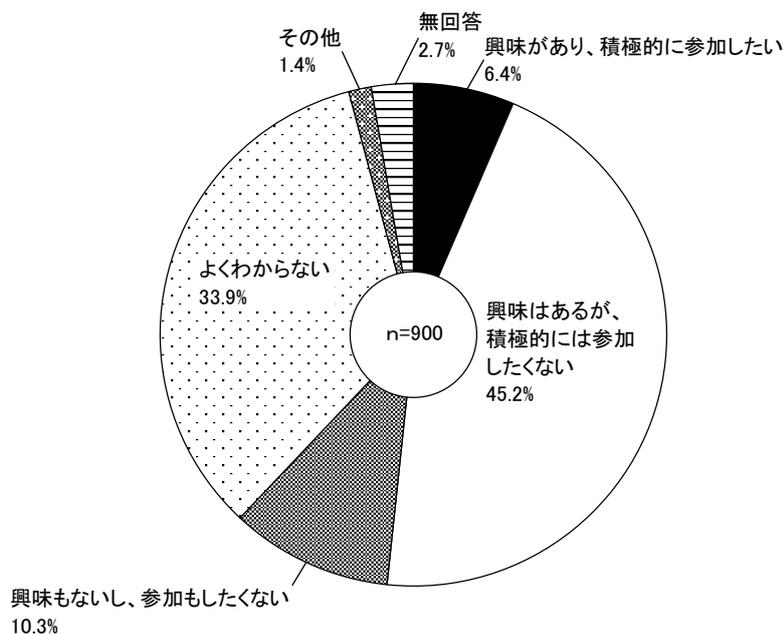
図 56 景観まちづくりの取組について力をいれてほしいこと



■ 住民主体の景観まちづくりのルール作りに参加したいか (n=900)

住民主体の景観まちづくりのルール作りに参加したいかについて、「興味はあるが、積極的には参加したくない」(45.2%)で最も高く、続いて、「よくわからない」(33.9%)、「興味もないし、参加もしたくない」(10.3%)の順になっている。

図 57 景観まちづくりのルール作りに参加したいか



第 52 回府中市市政世論調査（概要版）

令和 2 年 9 月

発行：府中市政策総務部広報課

東京都府中市宮西町二丁目 24 番地

Tel 042-366-1711

実施：株式会社 T D S

東京都府中市晴見町二丁目 24 番地の 1

Tel 042-352-3330